

No.77 >>> Contents

「カイコを育てよう！2023」のお知らせ —全国蚕糸関係博物館横断キャンペーン—一般財団法人大日本蚕糸会	1
●トピックス	
シルクサミット 2022 in 鶴岡 「サムライゆかりのシルク～ここから先を紡ぎ出す～」を開催して鶴岡織物工業協同組合 理事長 清野 力	2
有機繭生産の実証試験について群馬県蚕糸技術センター 蚕糸研究係 池田真琴	4
●研究・技術情報	
繭糸分離細繊維のない美しい絹を求めて一般財団法人大日本蚕糸会 蚕糸科学技術研究所 副所長 栗岡 聡	6
●蚕糸・絹業団体情報	
野外博物館「北海道開拓の村」の紹介一般財団法人北海道歴史文化財団事業本部長 野外博物館北海道開拓の村館長 中島宏	11
●蚕糸偉人の足跡を訪ねる	
第4回「尾高惇忠」.....富岡製糸場 名誉顧問 今井幹夫	13
●イベント情報	16
●一般財団法人大日本蚕糸会から	
2022 年度第4次分の純国産絹マーク使用許諾状況	21
純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧	24
活動日誌	32
●蚕糸絹関係博物館一覧	33
●蚕糸絹関係機関ホームページ一覧	36
●統計資料（統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。）	38

「カイコを育てよう！2023」のお知らせ

—全国蚕糸関係博物館横断キャンペーン—

一般財団法人大日本蚕糸会

趣旨

日本の蚕糸業は、養蚕、製糸、織物等が地域の重要な産業として発展し、蚕は人々にとって身近な存在でしたが、蚕糸業の衰退とともに目に触れる機会が少なくなっています。

こうした中で、各地の博物館では、地域の特色を活かした展示・催事が開催されていますが、個別に実施されている「カイコ、蚕種の配布」活動を連携することで、かつて日本の産業を支えた蚕糸業を知ってもらうことを目的として、「カイコを育てよう！2023」の名の下に集うこととしました。

事業の内容

参加博物館が行う「カイコの配布」

※博物館毎に配付時期が異なります。詳しくは、各博物館のお知らせでご確認下さい。

統一されたポスター、チラシ、博物館キャラクターシール

カイコや絹の知識の特設サイトの開設（カイコや博物館の現地クイズ等）

感想をお寄せいただいた方へ抽選でプレゼントを用意

主催者等

主催：「カイコを育てよう！2023」実行委員会 一般財団法人大日本蚕糸会

後援：蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会 全国シルクビジネス協議会



2022年 ポスター

参加施設（博物館）

(1) 群馬県立日本絹の里	群馬県高崎市
(2) シルク博物館	神奈川県横浜市
(3) 岡谷蚕糸博物館	長野県岡谷市
(4) 駒ヶ根シルクミュージアム	長野県駒ヶ根市
(5) 西予市野村シルク博物館	愛媛県西予市
(6) 野外博物館 北海道開拓の村	北海道札幌市
(7) ジャパンシルクセンター	東京都千代田区

連絡先

一般財団法人 大日本蚕糸会
(TEL) 03-3214-3500
廣瀬・上原

シルクサミット 2022 in 鶴岡

「サムライゆかりのシルク～ここから先を紡ぎ出す～」を開催して

鶴岡織物工業協同組合

理事長 清野 力

鶴岡市をはじめとする山形県庄内地域は、全国で唯一、養蚕から製糸・製織・精練・捺染・縫製までの絹製品生産の一貫した工程を域内に有し、2017年には日本遺産「サムライゆかりのシルク 日本近代化の原風景に出会うまち鶴岡へ」として認定を受けております。

昨年 2022 年は、徳川四天王の筆頭 酒井忠次を祖とする旧庄内藩主酒井家の入部 400 年の節目の年でした。これを記念し、地元では歴史と文化を活かした事業を展開する中、農研機構よりシルクサミットの開催地として打診いただき、日本遺産のストーリーにちなみ「サムライゆかりのシルク～ここから先を紡ぎ出す～」をテーマとして、鶴岡でシルクサミットを開催させていただき運びとなりました。2022 年 12 月 10 日から 11 日にかけて行われ、全国から約 100 名の参加をいただきました。

講演と活動事例報告

初日の 10 日は、講演と活動事例報告の二部構成となっており、初めに松ヶ岡開墾場の山田陽介副理事長が「士族の開墾 ～松ヶ岡、絹の歴史のはじまり」と題し、庄内地域の絹産業を語る時の原点ともなる



講演の様子

松ヶ岡の開墾の歴史について講演しました。この歴史から続く現在の取組みとして、鶴岡シルク株式会社の大和匡輔代表が「過去を学び未来に繋ぐ ～kibiso のブランディングによるシルクの可能性～」と題し、鶴岡のシルクを次世代に繋げるべく、蚕が繭を作る際に最初に吐き出す糸「きびそ」に着目して 2007 年に立ち上げたブランド「kibiso」のブランディングについて話され、「織物で例えると経糸は歴史であり、緯糸という新たなイノベーションを入れることも重要」と講演を締めくくりました。

その後の活動事例報告では、福栄養蚕振興会の菅原久継さんが「養蚕業の再興に向けて ～福栄養蚕振興会の試み～」と題し、中山間地である鶴岡市木野俣地区で地域活



シルクミライ館で説明する鶴岡シルク(株)大和社長

性化のために取組む養蚕の再興事業を紹介しました。次に Morus 株式会社の佐藤亮代表が「新たな食の選択肢として、カイコが再び世界を変える」と題し、新たなタンパク源としてカイコをパウダー化して食品に活用する取組みを説明しました。農研機構の神戸裕介主任研究員は「非繊維形態に成形加工したシルクの医療応用を目指した研究」と題し、非繊維形態のシルク製医療機器から、今後の医療応用への発展の可能性について報告しました。最後に、Spiber 株式会社の中村浩之さんが「構造タンパク質という新たなマテリアルプラットフォームの実現に向けて」と題し、同社の立ち上げから、循環型社会に向け未来の素材として期待できる構造タンパク質について紹介しました。また、会場では Spiber 株式会社、農研機構、九州大学と当組合が、展示ブースを設置して製品や研究活動について紹介し、休憩時間中には製品の試着等を楽しむ来場者もいました。

産地見学会について

翌日の 11 日は産地見学会として、鶴岡の観光地を代表するクラゲ展示数世界一位の「加茂水族館」と、開墾の歴史を現在まで紡いでいる「史跡松ヶ岡開墾場」をご案内しました。

松ヶ岡開墾場は、明治維新後、旧藩士約 3,000 人が地元の人々の協力を得ながら開いた開墾地であり、大蚕室 5 棟が現存しています。1 番蚕室の「松ヶ岡開墾記念館」では展示品をご覧いただくとともに開墾の歴史や蚕室の構造についてご説明しました。2022 年 4 月にオープンした 4 番蚕室「シルクミライ館」は体験型の施設であり参加者の皆様には目で見て、触れて、音で聴いて鶴岡のシルクに親しんでいただき、併せて館内に併設されている「kibiso ショップ」でもお買い物をお楽しみいただきました。

未だ新型コロナウイルス感染症の感染拡大の懸念がある中での開催ではありましたが、酒井家庄内入部 400 年というこの節目の年に全国各地から鶴岡へお越しいただき、深く感謝を申し上げます。この鶴岡の絹産業の伝統や、シルクの可能性を未来に繋げるべく、絹産業事業者や行政のみでなく関連する業種との協調・連携を図ってまいりたいと考えております。今後とも皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、「シルクサミット 2022 in 鶴岡」の開催準備にご尽力いただきました農研機構の皆様、鶴岡市役所の皆様、関係者の方々に改めて御礼を申し上げます。

有機繭生産の実証試験について

群馬県蚕糸技術センター

蚕糸研究係 池田真琴

はじめに

蚕糸絹業を取り巻く情勢は年々厳しくなっており、令和4年の全国の繭生産量は51tにとどまっています。この状況を打開すべく、従来の品種育成に加えて、遺伝子組換え技術を用いた高機能シルク生産や有用物質生産、あるいは蚕の昆虫食への応用研究など、様々な取り組みが行われているところです。

こうした取り組みは、元の価値を高めたり新しい価値を加えたりするもので、有機繭生産は、生産方法に新しい価値を付与する取り組みの一つです。化成肥料や除草剤を用いず有機的に栽培された桑を用い、洗浄や消毒に化学物質を使用せず有機的な環境を整えて繭生産を行うことで、一般的な方法で生産された繭とは差別化された、付加価値の高い繭として取引されることが考えられます。特にヨーロッパなど、環境問題などに先進的に取り組んでいる国や地域で、より受け入れられると期待できます。

農産物や畜産、酪農の生産物については、有機農産物の日本農林規格（有機JAS）の認証制度があります。しかし繭については、このような制度はまだ整っていません。そこで、蚕糸絹業の業界団体である全国シルクビジネス協議会は、農林水産省の「茶・薬用作物等地域特産作物体制強化促進事業」でガイドラ

インを策定しました。それに基づいて生産された繭が「有機繭」として自己認証され、流通することを目指しています。

群馬県蚕糸技術センターでは、有機的な繭生産の実証飼育試験を実施し、繭の生産は可能か、どのような品質の繭が生産されるのか、調査を行いました。

実証飼育試験

飼育試験は、令和4年7月と9月の2回、実施しました。一般的に農家で実施されている、1～3齢（稚蚕）を人工飼料で、4・5齢（壮蚕）を条桑で飼育する方法を対照区とし、全齢を有機的に栽培された桑で飼育する試験区（全齢有機桑区）と、稚蚕は人工飼料で飼育し、壮蚕を有機的な桑で飼育する試験区（壮蚕有機桑区）を設定しました。有機的な桑は、群馬県内で有機JAS認証を得て栽培した桑をお茶に加工している業者から購入し、供試しました。飼育した蚕の品種は「錦秋×鐘和」、人工飼料育には稚蚕用人工飼料「くわのはな」を用いました。飼育頭数は各区800～1,000頭、壮蚕は飼育台で飼育し、上簇は回転簇で行いました。なお、蚕室の消毒は慣行の方法で行いましたが、飼育中の蚕体消毒は実施せず、脱皮前後の時期に消石灰を散布しました。

表1 7月と9月の飼育成績

飼育 時期	試験区	飼育 経過 (日:時)	対掃立歩合 (%)				1L 粒数 (粒)	繭重 (g)	繭層重 (mg)	繭層 歩合 (%)
			減蚕			化蛹				
			齢中	簇中	繭中					
7月	対照区	24:04	0.8	1.1	5.2	92.8	68	2.03	518	25.5
	全齢有機桑区	24:04	0.8	1.1	3.0	95.1	80	1.79	415	23.2
	壮蚕有機桑区	24:04	1.3	1.4	2.4	94.9	77	1.84	442	24.0
9月	対照区	27:05	17.7	0.1	1.3	80.9	78	1.72	394	22.9
	全齢有機桑区	28:04	15.5	0.4	3.5	81.1	80	1.80	405	22.5
	壮蚕有機桑区	27:05	14.7	0.2	4.6	80.5	79	1.85	422	22.8

表2 繰糸成績

飼育 時期	試験区	生糸量歩合 (%)	解じょ率 (%)	繭糸長 (m)	繭糸量 (g)	繰度 (d)	小節 (点)
7月	対照区	20.90	56	1,614	0.428	2.41	95
	全齢有機桑区	19.89	67	1,456	0.356	2.23	95
	壮蚕有機桑区	20.49	66	1,447	0.373	2.36	95
9月	対照区	17.76	90	1,189	0.328	2.51	95
	全齢有機桑区	18.71	92	1,210	0.343	2.58	95
	壮蚕有機桑区	19.08	92	1,181	0.339	2.62	95

※繰糸は従来の方で実施した

表1に飼育成績を示しました。7月の成績を見ると、化蛹歩合は対照区で93%、有機桑区は95%と、どちらも良い成績を示しました。繭は対照区に比べて有機桑区が有意に小さくなりました。9月の飼育では、対照区と有機桑区の間には化蛹歩合の差はありませんでしたが、7月に比べると80%程度で低い値となりました。繭は7月とは異なり、有機桑区の方が大きい傾向にありました。

7月は環境条件が適切で丈夫な蚕を飼育できたこと、対照区に用いたセンターの桑の状態が良かったことが、特に対照区が好成绩だったことに繋がったと考えられます。一方9月に化蛹歩合が低かった要因は、供試した卵の孵化歩合と齢中（幼虫の間）の減蚕歩合が高かったことから、孵化した幼虫の中に含まれていた虚弱な個体が掃立直後に死亡したのではないかと考えられ、有機桑との関連性はないと思われます。ま

た、9月は特に対照区に用いたセンターの桑の硬化が早く、繭の大きさに影響した可能性がありました。

以上より、有機桑を用いた場合、桑園への施肥の質や量によっては繭が小さくなり収量が下がる可能性があります。実施した飼育試験では、幼虫の強健性や繭の性状が極端に悪くなることはなく、表2のとおり問題なく繰糸することができました。このことから、有機桑による繭生産は十分可能であると考えています。

おわりに

昨年度中に、全国シルクビジネス協議会により策定されたガイドラインと有機繭生産の手順について、各地で研修会を実施しました。今後は有機桑の栽培や消毒などについても検討を進め、養蚕における一つの新しい価値を付与する手段となる有機繭生産の手順書を完成させたいと考えています。

繭糸分離細繊維のない美しい絹を求めて

一般財団法人大日本蚕糸会
蚕糸科学技術研究所

副所長 栗岡 聡

前号の「研究・技術情報」では、ラウジネスの原因になる繭糸分離細繊維が比較的多く発生しているケースがあることをご紹介いたしました。そして、この繭糸分離細繊維の発生量を的確に把握するために、繭糸分離細繊維を微繊維の集合体（Fine Fiber Assembly：FFA）に変換して数値化する FFA 法についても述べました。今回は、この FFA 法を用いて繭糸分離細繊維の発生状況について品種間の違いを調査し、この調査過程で検証された FFA 法の定量性が製糸用原料繭の検査法に応用できることをご紹介したいと思います。

繭糸分離細繊維を数値化する

実用蚕品種と原種を含む計 9 品種の繭糸分離細繊維の発生状況を、FFA 値（積算）

の比較で図 1 に示します。国産実用蚕品種（緑色）の FFA 値は高く、「錦秋×鐘和」や「春嶺×鐘月」では 300 を超えました。中国産「青松×皓月」やブラジル産「日 115×中 108」といった外国産の実用蚕品種（黄色）でも FFA 値は高く、300 以上の高い値を示しました。一方、青色で示した「小石丸」、「セヴェンヌ白」、「日 501 号」、「中 501 号」といった原種の FFA 値は実用蚕品種に比べてかなり低く、例えば「セヴェンヌ白」の場合では FFA 値は僅か 2 でした。このように、FFA 法で繭糸分離細繊維の発生状況を品種別に数値化して比較することができます。ここで注目したいのは、繭糸分離細繊維は中国産繭やブラジル産繭においても国産繭と同程度に発生しており、ラウジネスは国産糸だけではなく、輸入糸を

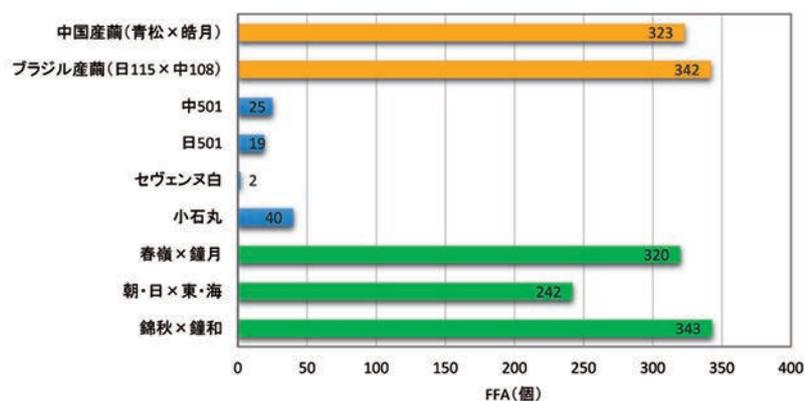


図 1 蚕品種別の繭糸分離細繊維の発生状況

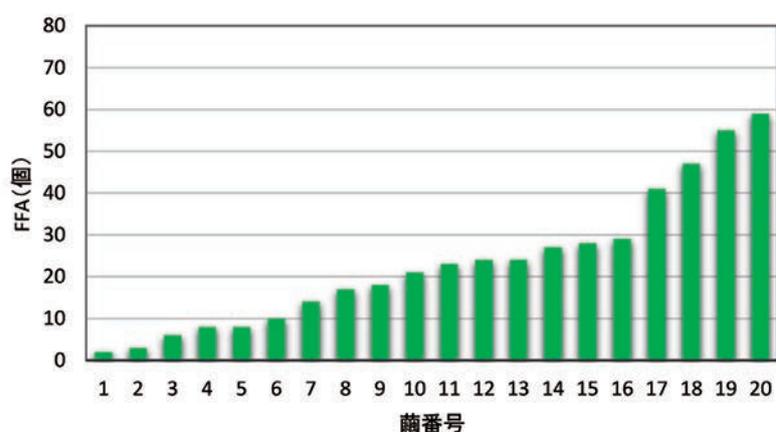


図2 繭糸分離細繊維発生量の個体差

使った絹製品にも発生している可能性が高いということです。

ところで、実用蚕品種は均質な繭を大量に収穫できるように開発された蚕です。複数の原種を多元的に交配して、繭の重さや繭糸の長さといった経済的に重要な形質が揃うように選抜育種されてきました。そうすると、繭糸分離細繊維が多い実用蚕品種では全ての個体において繭糸分離細繊維が多くなるのでしょうか？このことを確かめるために、「錦秋×鐘和」で調査した結果の一例をご紹介します。ある年の晩秋蚕期に、同じ飼育条件で収穫した繭の FFA 値を調査したところ、データにはバラツキが認められました。FFA の少ない順に左からデータを並べていくと、FFA 値は低いほうから高いほうにかけて連続的な分布をして、個体差があることがわかりました (図2)。同じような傾向は「春嶺×鐘月」や「朝・日×東・海」でも確認されていることから、繭糸分離細繊維に関しては、実用蚕品種といえども不揃いで、発生量の多い繭と少ない繭が混在しているといえます。

発生量は生産年で異なる

次に、不揃いであることを前提として、「春嶺×鐘月」の繭糸分離細繊維の発生量を生産年別に比較してみました。平成27年～30年の春蚕期に同じ農家で収穫した繭について生産年別に分析した結果、繭糸分離細繊維の発生量には年変動が認められました (図3)。発生量が最も高かったのは平成27年産繭で、FFA 値は638でした。

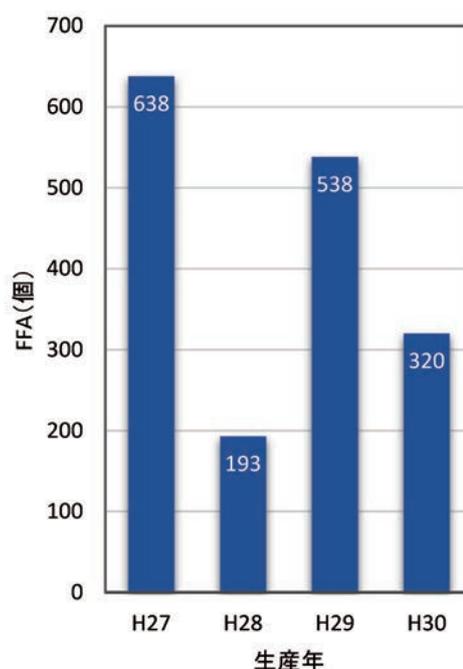


図3 繭糸分離細繊維発生量の年変動

一方、発生量が最も低かったのは28年産繭で、FFA値は193でした。繭の品質を左右する要因として、上簇時期の温度や湿度が重要であることが知られています。そこで、実験的に高温多湿の環境で繭をつくらせてみましたが、繭糸分離細繊維の発生量への影響ははっきりとはわからず、変動原因は今のところ不明です。なお、平成27年産繭のように繭糸分離細繊維量が多くても、現行の検査では繭糸分離細繊維の影響を反映した欠点が捕捉されないため、異常は指摘されませんでした。

ラウジネス発生リスクを予測する

均質性が高い実用蚕品種ですが、生糸のラウジネス検査が行われなくなったことから、繭糸分離細繊維が多発しても見過ごされ、原料繭として流通しています。繭糸分離細繊維の視点でみると、実用蚕品種は遺伝的に雑駁であり、上述の生産年別の調査例では発生量の最大格差は約3倍になりました。繭糸分離細繊維の少ない実用蚕品種が早急に開発できればよいのですが、遺伝的背景の解明にはもう少し時間が必要です。当面の間は、繭糸分離細繊維と上手に付き合っていくことが必要です。そのためには、製糸原料繭における繭糸分離細繊維の発生量を予測して、ラウジネスの抑制に適した精練法や染色加工法をあらかじめ検討することが有効な対処方法のひとつになると考えられます。

ところで、FFA法は遺伝解析時に必要な

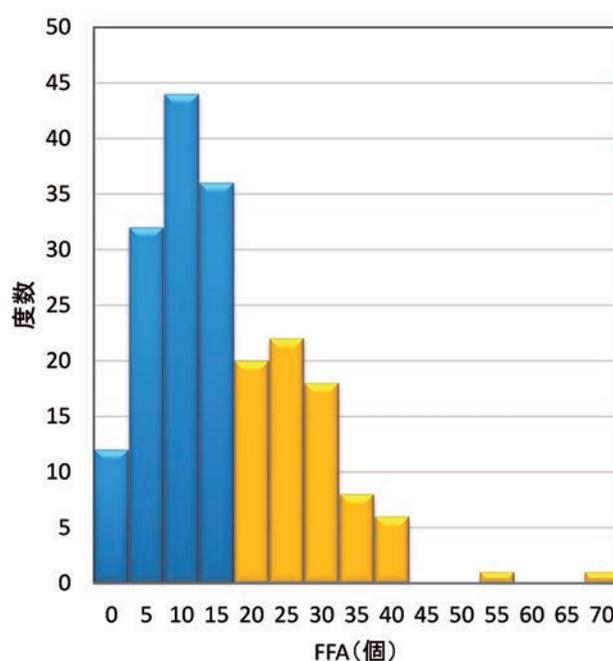


図4 「春嶺×鐘月」 FFAの度数分布グラフ

個体別のデータを集めるために確立した方法ですが、その定量性や再現性から、製糸原料繭における繭糸分離細繊維の発生量を予測できるのではないかと考えました。ただし、製糸原料繭はキログラム単位の大口で管理されるため、統計的な根拠に基づいた精度の高い抜き取り検査を行う必要があります。そこで、実際の抜き取り検査を想定して、約7キログラム（粒数：約8000）の「春嶺×鐘月」の荷口から、統計解析に必要なとされる十分なデータを集めて解析した結果、荷口から30個の繭を抜き取って検査すれば、高い推定精度でFFA平均値を予測できることがわかりました¹⁾。

ここで、「春嶺×鐘月」荷口のFFA値を5幅刻みでグループ化したデータ数（度数）をグラフにすると（図4）、グラフ形状は右側の裾野が広がっていることがわかりま

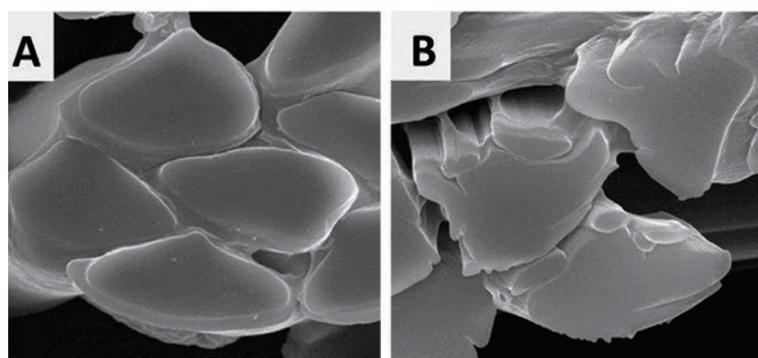


図5 フィブロイン断面の比較

す。この右裾部分には、FFA 値が高く、繭糸分離細繊維の多い繭が分布していることとなります。これまでに、FFA 値が 20 くらいになると繭糸分離細繊維が目立ち始めることを確認しています。そこで、グラフで FFA 値が 20 以上の繭群（黄色）をラウジネスの発生リスクが高い低品質繭とみなして、黄色い繭群の割合を計算することができます。計算の結果、検査した約 8000 粒の「春嶺×鐘月」荷口には、低品質繭がおおよそ 2400 粒（約 2.2 キログラム）含まれていることが推測されました。絹の品質は、節検査でもそうであるように、一部の低品質繭の影響により全体の品質が低下してしまうことがよくあります。そのため、FFA 値が高い不良繭の混入割合が高まると、ラウジネスの発生リスクが高い原料になる可能性が考えられます。そのため、黄色い繭群の割合は、原料繭に潜む低品質繭の割合を推定するための有効な指標といえます。

この他に、FFA 値がわかることで予測できることがもうひとつあります。着物一反をつくるのに必要な繭量は約 3000 粒と見

積もられているため、織物 1 cm^2 当りに発生するラウジネスの予測値を算出することができます。荷口調査を行った「春嶺×鐘月」では、その数値は 188 個と算出されました。ラウジネスが多発する品種でつくられた織物 1 cm^2 あたりには、100 個程度のラウジネスが確認されたという過去の研究報告があります。品種により数値は変動しますが、今回の推定値はこの文献値と比較しても実態から大きく外れた数値ではないため、FFA 値から求めるラウジネス数も原料繭の品質を評価する有効な指標といえます。

ここまで、FFA 検査により原料繭の品質を予測できることを述べてきました。このように、FFA 検査は繭糸分離細繊維の発生量やラウジネス数を予測し、品質の高い繭原料であるか否かを判断する新規な繭質検査法として期待されます。特に、ラウジネス検査とは異なり、生糸を調製しなくても原料繭の段階で評価できることが大きな特徴といえます。このような検査があれば、前号で紹介した藍染糸でみられたようなラウジネスの大量発生は未然に防ぐことができたかもしれません。

美しい絹を次世代へ

繭糸分離細繊維は国産繭だけの問題ではないことがわかりました。国産繭と輸入繭のフィブロインにおいて、両者の明確な特性の違いは今のところ見出されていません。そこで、外国産繭に先駆けて繭糸分離細繊維フリーの国産繭が実用化できれば、外国産繭との差別化が可能になるかもしれません。「小石丸」、「セヴェンヌ白」、「伊達錦」のような在来品種は、繭糸分離細繊維が少なく、絹本来の美しいフィブロインをつくりだしてくれます（図 5A）。一方、実用蚕品種のような交雑種では繭糸分離細繊維が多く、絹のイメージとは大幅にかけ離れた不整形なフィブロイン（図 5B）をつくりだします。形状だけではこのようなフィブロインを絹と判断することは難しいかもしれません。

機能美という言葉があるように、飛行機や車などのような機能性を追求したハイテク工業製品には美しさが伴っています。日本刀などの武具には究極の機能美があるといえるでしょう。一方、鳥の翼やカブトムシの角のように、生物のつくりだす器官にも機能だけではなく美しさが備わっていることが感じられます。このように考えると、絹においても繭糸分離細繊維を発生しない美しいフィブロインにこそ絹本来の強さや機能が伴うのではないのでしょうか。

ここで、田島弥太郎博士の著書「我輩は蚕である」²⁾で、主人公の「蚕」の嘆きがありますので、以下にその抜粋をご紹介します。

「我輩が吐き出す繭層の中に、すでにラウジネスの原因が存在しているとすると、ラウジネスの責任はすべて我輩の側にあるということになるらしい。しかし誰が我輩をそうさせたかということそれはあくまでも欲の深い人間のせいである。理由を一言にすれば我輩の吐き出す絹糸の割合を少しでも多くしようと、人間が我輩の体を片輪にしてしまったためなのである。貧弱な繭層をつくる繭にはラウジネスは出てこない。昔は我輩はこんな糸は吐かなかった。今から 1200 年程前のきれ地が、正倉院に残っているがこれがどうなっているか調べてみるがよい。」

絹の大量生産、大量消費の時代を終えた今日では、繭の大きさを最優先するよりも本来の絹を蚕につくってもらうことが望ましいのではないのでしょうか。そして、繭糸分離細繊維のない繭の生産技術と美しい絹を次世代に引き継ぐ役割が私達にはあると信じて、日々の研究活動に励んでいます。

引用文献：

- 1) 栗岡 聡・池嶋智美：FFA(Fine Fiber Assembly) 法による製糸原料繭における繭糸分離細繊維の発生予測。蚕糸・昆虫バイオテック.,91,123-130,2022.
- 2) 田島弥太郎：我輩は蚕である。発行 日本絹の里 2000.

野外博物館「北海道開拓の村」の紹介

一般財団法人北海道歴史文化財団事業本部長

野外博物館北海道開拓の村館長

中島宏一

北海道開拓の村（以下、「開拓の村」）は、北海道各地の歴史的建造物 52 棟を移築復元または再現し、北海道近代化の過程を市街地、農村、漁村、山村の 4 つの群（街並み）で構成している野外博物館です。1983 年（昭和 58）にオープンして以来、2023 年度（令和 5）で開村 40 周年を迎えるなか、1988 年（昭和 63）から毎年夏期間に行っているのが「蚕の飼育」です。

北海道に養蚕が導入されたのは、1858 年（安政 5）に八王子千人同心が七重、大野、箱館の住民に蚕卵紙を配布し養蚕を伝授したことに始まります。明治維新後、開拓使は屯田兵授産をはじめとする農業振興事業として養蚕を導入するため、1875 年（明治 8）に旧庄内藩士に要請して札幌と道南の大野（現、北斗市）に桑園を開墾し、以降、本州方面からの移住者たちによって道内各地で養蚕が取り組まれました。

「蚕の飼育」は農村群の旧田村家北誠館蚕種製造所で見ることができます。この建物は、高知県で養蚕教師をしていた田村忠誠が 1901 年（明治 34）に浦臼村（現、浦臼町）に入植し、同年から 5 年ほどかけて



蚕室

建築されたもので、開拓の村には 1981 年（昭和 56）に移築され、翌年に復元されました。この建物で、忠誠とその子の亦次郎父子二代にわたって、蚕種を製造し全国へ販売しました。忠誠が生産した繭は毎年行われる品評会で評価され、宮内省献納をはじめ東京帝国大学（現、東京大学）に標本保存されるなど、忠誠の技術は品質良好な繭を生産する蚕種の販路拡大に大きく寄与しました。

この建物には、養蚕を行うためのアイデアが多く施されています。特に、窓ガラスの多用と蚕室の個室化、蚕室床部に設置された炉といった室温対策、さらに建物の内



ボランティアによる飼育

部に蚕種の出荷調整を行うために設けられた大きな井戸等が特徴として挙げられます。

開拓の村が蚕の飼育を行う意義は、お客様に対して開拓期の養蚕農家の暮らしの理解を促すとともに、人間がその営みを維持していくための生産動物としての蚕の役割を理解してもらうことにあります。したがって、この活動は蚕種をふ化させてから繭を作り上げるまでの成長過程と糸織りの工程がリアルタイムにお客様の目に触れるように配慮しています。

蚕種は北海道大学北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場養蚕部から提供を受けています。北海道大学における養蚕の歴史は古く、前身の札幌農学校時代に遡ります。桑畑は、村内に2か所整備し、桑樹も北海道大学から提供を受けた苗木を育成しており、品種は「五郎治早生」と「剣持」の2種類です。

桑畑の整備、蚕具の製作（糸織り器、簇等）、飼育、糸織りの実演に至る一連の作業は、開拓の村で解説活動に取り組むボラ

ンティアが主体となって行っています。ここで特筆されるのは、ボランティアは曜日ごとにグループを編成して活動しているため、毎日飼育する人が異なることです。このため、「飼育日誌」に毎日蚕の飼育状況を記録し、皆で連携をとりながら作業にあたっています。このような飼育方法は他に例がないと思われま

す。7月下旬、蚕種1,500～2,000粒ほどを掃き立て、稚蚕期は蚕箱に入れて透明のアクリルカバーを施して飼育します。壮蚕期になると畳半畳ほどの大きさの蚕座で飼育します。北海道では、夏といえども夜には気温が20℃以下になることもしばしばで、室内の温度に気を使います。上簇を始めると、ボランティアが稲わらで編み上げた簇に蚕を移します。生産した繭は、北海道大学養蚕室に依頼して乾繭します。その繭を使用して糸織りを実演して、一連の「蚕の飼育」が終了します。

北海道における養蚕の歴史と蚕種製造に勤しんだ人々の暮らしを学び、蚕の一生をリアルに体験できる場、それが北海道開拓の村です。

■ 問い合わせ先：

(一財) 北海道歴史文化財団
野外博物館「北海道開拓の村」
〒004-0006
札幌市厚別区厚別町小野幌 50-1
TEL: 011-898-2692
E-mail: info@kaitaku.or.jp
HP: <https://www.kaitaku.or.jp>

第4回「尾高惇忠」

富岡製糸場

名誉顧問 今井幹夫

生い立ち

尾高惇忠^{じゆんちゆう}は1830（天保元）年に武蔵国^{はんざわぐんしもてぼか}榛沢郡下手斗村（現深谷市下手斗）の名主の子として生まれた。同家の生業は米穀・塩・油などの販売と藍玉の製造販売のほか養蚕などの農業も兼業した。

惇忠は小さい頃より文武を好み学問は漢学や陽明学を学び武道は剣術を学んだ。やがて私塾を開き、従兄弟で10歳年上の渋沢栄一も門下生となった。栄一が学んだのが論語・孟子・四書・五経・小学・文選・史記・十八史略・日本外史などであったと述懐している。

惇忠が12歳の頃、親に連れられて水戸藩主徳川斉昭が城外で模擬戦的追鳥狩を見学し大きな感動を受けた。この強烈な印象が徳川斉昭を尊敬し、以後惇忠の思想や行動に影響を与え、やがて彼が尊王攘夷論を尊ぶ基を築いたという。

同郷で同世代の人物で後に活躍した人物には惇忠のほか渋沢栄一・渋沢成一郎（後の渋沢喜作）などがある。成一郎も栄一の従兄弟である。

幕藩体制の動揺と崩壊

惇忠らが青年期を迎えた頃、今まで盤石



晩年の尾高惇忠（深谷市郷土史家荻野勝正氏提供）

であった幕藩体制に大きな亀裂が生じた。嘉永6（1853）年に米国のペリー提督が大統領の親書を持って我が国の開港を迫り、ついで翌年には日米和親条約を結び、5年後の安政5（1858）年には和親条約を結んだ国々と修好通商条約が締結され、長く続いた鎖国が解かれ貿易が開始されたのである。この修好通商条約の締結は朝廷の勅許を得ていないと理由から激しい反対運動や攘夷論が起り、これを抑圧するため井伊直弼大老による安政の大獄が始まり、間もなく井伊大老が暗殺される事件が起きた。これを機に公武合体機運が高まり皇女

和宮と將軍家茂との婚儀が成立し和宮は江戸へ下向した。これで攘夷運動や討幕運動を収めようとしたが一連の運動は一層激しくなり、やがて朝廷は薩摩・長州藩に「倒幕」の密許を下す。これに対して將軍徳川慶喜は大政奉還を願い出た。

これら中央の動きに対し惇忠らも大きな影響を受けた。まず栄一、惇忠らは高崎城を攻撃し余勢を駆って横浜の外人街を焼打ちにする計画を立てたが身内からその期にあらずと押止められた。これを機に栄一は京都守護に当たっていた一橋慶喜（後の徳川慶喜）を頼り京都に赴きやがて慶喜の家臣となった。一方、成一郎は彰義隊を結成し隊長となり惇忠らも加わって上野寛永寺に立てこもって官軍の江戸の攻略を阻止しようとした。

このような中で王政復古の大号令が発せられ260年にわたって続いた徳川政権が幕を閉じ、明治政府が誕生して東京に遷都となり、封建社会から近代社会の歩みが始まったことは歴史の示すところである。

明治政府の一大政策

明治政府は近代化を進めるため、まず富国強兵・殖産興業を目指し工業化を進めた。第1号が大阪の造幣寮である。これは貨幣の統一を図るものであった。第2号が洋式器械製糸工場の設立である。安政の開国後、輸出額の首位を占めたのが生糸である。しかし我が国の生糸は原始的な座繰製糸のため、西欧諸国や清国の生糸に比べると劣っ

ていた。多額の外貨獲得を図るには洋式器械製糸場の設立が必要不可欠であった。

この設立委員の中に渋沢大蔵少丞（渋沢栄一）、尾高庶務少佑（尾高惇忠）、杉浦地理権正（杉浦譲）がいた。栄一と譲は慶応3（1767）年にパリで開かれる万国博覧会にナポレオン3世が將軍慶喜を招待した際に名代として参加した実弟の徳川昭武に随行し、西欧各地の進んだ諸産業を視察していた。尾高も農家出身で養蚕の経験者であった。

政府は指導者として横浜在住のポール・ブリュナらを雇い彼の「見込書」に基づいて建設地を富岡町として建立したのが官営富岡製糸場である。製糸器械と蒸気エンジンは、ブリュナがリヨンに赴き特注した器械類である。製糸場の設立地の決定に際し設立委員らは現地に赴き現地に決定したことを杉浦譲は『客中雑記』に記し、建設資材調達に関する記録『製糸場諸用日記』は尾高惇忠が記している。操業開始後、惇忠は初代の工場長に任命された。



現在の富岡製糸場（富岡市教育委員会提供）

経営上の決断

明治5年10月に操業を開始したが4年間は赤字続きであった。主な要因は初めて器械製糸機を操る工女の技術が未熟な上に政府役人の経営手腕も低かったこと等であった。ところが明治9年度の我が国の繭は大豊作であった。これに対して西欧諸国は大凶作であった。これを知った惇忠は従前の2倍以上の良い繭を購入し、かつて富岡製糸場に勤務していた熟練工女まで再雇用して生糸の大量生産を図り生糸が急騰すると、これを売り抜き今までの赤字を解消させた。この時の黒字額は『商戦論』に詳しい。しかし、この思惑買いは政府首脳には不評であった。彼はもう一つ当時政府が承認していなかった秋蚕説を積極的に推奨してい

たため役人としての立場を失い遂に明治9(1876)年には工場長を辞した。

富岡を去った惇忠は栄一の要望で栄一らが設立した第一国立銀行盛岡支店の支配人となり業務の傍ら農・工・商及び製藍と染色業の普及活動に努めた。明治20(1887)年には同銀行仙台支店の支配人に転じ、現在の商工会議所副会頭に就任し、宮城県の奨励事業としての普及活動の手本となる『商戦論』『藍作指要』『蚕桑長策』『教学指要』などの著書を出している。

明治25(1892)年尾高は63歳になると第一国立銀行を辞して自由の身となる。同34(1901)年東京深川区の自宅で死去、享年72。亡骸は郷里の現深谷市下手斗の妙光寺に葬られた。

第一種功績賞

埼玉県大里郡八基村 故 尾高惇忠

明治二年政府に蠶業の發達を圖らんが為歐州式の製絲業を起こさんとするの議あるや選ばれて官に蠶桑の局に仕え同僚と共に地を富岡に相し製絲場の建設に従事したり爾來苦辛慘憺明治五年工竣りて開場するや堅忍不拔經營の衝に當りしを以て効果著しく顕れ永く本邦製絲の模範となるに至れり又秋季養蠶の利多きを思ひ新に秋蠶の名稱を附し多年の研究を積み之が普及に力めたり事偶々上司の忌憚に触れ勇退を為すの止むなきに至れりと雖も斯業の将来に對しては深き確信を有し百折撓ず千挫屈せず之が發達に努力せり蓋し秋蠶の今日あるを致せるは其力興て大なるものありと謂うふべし其蠶絲業上に貢獻せる功績洵に著大なり仍て本會功績表彰規程に據り茲に第一種功績賞を授與し以て其功績を表彰す

大日本蠶絲會總裁大勲位功二級 載仁親王

大日本蠶糸会報 第304号 (大正六年5月号)
第一種功績賞 埼玉県大里郡八基村 故 尾高惇忠

イベント情報

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、各博物館では臨時閉館やイベントを中止している場合があります。詳細は各 WEB サイトなどでご確認下さい。

●岡谷蚕糸博物館 企画展

信州の作家展 Part 4 信州草木染友禅作家 木村不二雄の世界

木村さんは、長野県須坂市を拠点とし、自然由来の染料を使う信州独自の草木染友禅の継承者の1人です。手間と時間をかけて描き出す、心和む色溢れる世界をご堪能ください。

〈会期〉 3月9日（木）～ 5月14日（日） 9:00～17:00

休館日：水曜日・祝日の翌日

〈主催〉 岡谷蚕糸博物館 ーシルクファクトおかやー

〈会場〉 岡谷蚕糸博物館 〒394-0021 長野県岡谷市郷田 1-4-8

Tel: 0266-23-3489

<https://silkfact.jp/>

E-mail: hakubutsukan@city.okaya.lg.jp

●岡谷蚕糸博物館 企画展

「日本茜・日本紫根 染織三人展」

紫根・茜は万葉集の時代から日本の色として染められてきました。本企画展はきものジャーナリスト中谷比佐子氏にプロデュースいただき、紫根・茜の生産地から、その色を絹に染め、作品にしていく3人の作家の取り組みや作品を展示いたします。

◎会期中、ギャラリートークや絞り染め・墨流し染めのワークショップが開かれます。

詳細は、ホームページをご覧ください。お電話にてお問い合わせください。

〈会期〉 5月18日（木）～ 8月20日（日） 9:00～17:00

休館日：水曜日・祝日の翌日

〈協力〉 きものジャーナリスト 中谷比佐子、江戸古法染 高橋孝之、爪搔本綴 服部秀司、京絞り 寺田 豊

〈主催〉 岡谷蚕糸博物館 ーシルクファクトおかやー

〈会場〉 岡谷蚕糸博物館 〒394-0021 長野県岡谷市郷田 1-4-8

Tel: 0266-23-3489

<https://silkfact.jp/>

E-mail: hakubutsukan@city.okaya.lg.jp

●日本絹の里 特別展（開館 25 周年記念展示）

「収蔵品展 つむぐ・たくす・つなぐ」

過去 5 年間に収蔵した資料を中心に、今まであまり機会に恵まれず展示することが出来なかった資料、そして、群馬県のオリジナル蚕品種を使用した「ぐんまシルク」認定品も併せてご紹介します。

〈会期〉 4 月 15 日（土）～ 5 月 22 日（月） 9:30～17:00

休館日：火曜日（祝日の場合は翌日）

〈主催〉 群馬県立日本絹の里

〈会場〉 群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町 888-1

Tel: 027-360-6300

<https://www.nippon-kinunosato.or.jp>

●日本絹の里 企画展

「ちりめん創作人形展 ～レトロかわいい絹彩浪漫～」
きぬいろろまん

高崎市在住の人形作家・竹本京さんが「レトロかわいい」をイメージし、制作した新作を中心にをご紹介します。ちりめんや古ぎれなどの素材にこだわりを持って制作された「懐かしく、可愛らしい」人形たちを展示し、絹の魅力をご紹介します。

〈会期〉 5 月 27 日（土）～ 7 月 10 日（月） 9:30～17:00

休館日：火曜日（祝日の場合は翌日）

〈主催〉 群馬県立日本絹の里

〈会場〉 群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町 888-1

Tel: 027-360-6300

<https://www.nippon-kinunosato.or.jp>

●シルク博物館 春の企画展
「絹を彩る鳥たち」

古来、多様な意味を込めて表されてきた「鳥の模様」を、所蔵品から選りすぐり展示紹介します。

〈会期〉 4月22日（土）～6月4日（日） 9:30～17:00（入館は16:30まで）
休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）

〈主催〉シルク博物館

〈会場〉シルク博物館 〒231-0023 横浜市中区山下町1番地シルクセンター2階
Tel: 045-641-0841
<https://www.silkcenter-kbkk.jp/museum/>

◎シルク博物館では、毎週末ワークショップや実演（真綿づくり等）を行っています。
ワークショップの申し込みは電話による事前予約制（先着順）です。
詳細は、ホームページをご覧ください。

●駒ヶ根シルクミュージアム 第61回特別展
「2023 まゆクラフト作品展」

駒ヶ根シルクミュージアムでは毎年、全国の皆様に向けて公募した繭クラフト作品の展示会を開催しています。当ミュージアムで開催する「まゆクラフト作品展」として16回目の開催となります。繭を手に入れにくい御時世になりつつありますが、大勢の皆様のお力添えによって、これまで毎年、開催することが出来てきました。駒ヶ根シルクミュージアムで開催する「まゆクラフト作品展」が養蚕・繭作りの伝統・文化を伝承するとともに、新たな繭文化の創造の一助を担うことに、少しでもお役に立てればと考えております。ご観覧くださった皆様の多くに、作り手のアイデア・センスに溢れた作品の素晴らしさを味わっていただき、その感動を共有していただきます。

〈会期〉 4月20日（木）～5月23日（火） 9:00～17:00
休館日：水曜日（5/3は開館）

〈主催〉駒ヶ根シルクミュージアム

〈会場〉駒ヶ根シルクミュージアム 〒399-4321 長野県駒ヶ根市東伊那482番地
Tel: 0265-82-8381
<https://komagane-silk.com>

★イベント開催報告

群馬県立日本絹の里 特別展「寺村サチコ展 一羽化—」

会期: 12月17日(土)～2月5日(日)

開催報告:

透明感のある薄い絹の布に絞り染や型染、捺染の技法を応用し、女性や生命の持つ美しさや醜さを表現するテキスタイルアーティスト・寺村サチコさんの作品は、植物や生き物のようでもあり、見るひとを独自の世界に誘います。

本展では、彼女ならではの感覚や感情に訴えるような作品だけでなく、群馬県産の繭から織った布を用いた作品や、繭や蚕をテーマとした作品も展開し、展示空間を活かしたインスタレーション作品を紹介しました。

群馬県立日本絹の里 第24回「群馬の絹」展

会期:2月9日(木)～2月13日(月)

開催報告:

本展は、歴史と伝統に培われた製造技術を駆使して創り上げた、優れた染織品、ニット、工芸品などの絹製品を一堂に集めて広く紹介し、群馬の蚕糸絹業の活性化、絹の需要拡大を図ることを目的に毎年開催しています。

今年は、16の出展者に絹製品の展示・販売を行っていただきました。期間中は毎日プロの着付けを体験していただく「きもの着付け体験」を行ったほか、手織り、藍染めなどの体験をとおして、絹の魅力を体感していただく5日間となりました。

岡谷蚕糸博物館 —シルクファクトおかや— 企画展

「諏訪のものづくりⅡ Knit in SUWA ～戦後岡谷・下諏訪のニット産業～」

会期：1月7日(土)～3月5日(日)

開催報告：

本企画展は製糸業の礎の上に現在の諏訪の工業を作り上げたたくましい足跡をたどる、「諏訪のものづくり」シリーズの第2弾です。戦時中から終戦直後にかけて岡谷・下諏訪地域の製糸業者たちが手紡糸からニット産業に乗り出し、戦後は長野県内で突出した産地となっていました。製糸業にまつわる原料がありニット産業が興ったのはこの地域ならではのきっかけです。その接点を裏付ける資料は少なかったのですが、初期の原料であった「繰繭短繊維」を製造している写真が収蔵資料に見つかり、これがニット産業と製糸業を結びつけるものだということがわかりました。高林館長が再現した繰繭短繊維とともに展示いたしました。地域にはニット産業に携わったご経験のある方が多くいらっしゃるので、情報収集コーナーに記入いただきました。関係する多くの方にご協力いただき、会期中の展示替えもすることができ、充実した企画展となりました。

2022 年度第 4 次分の純国産絹マーク使用許諾状況

純国産絹マークの 2022 年度第 4 次審査委員会を 2023 年 2 月 21 日(火)に開催しました。今回の申請は 6 者で、新規申請者 1 者 5 品目、使用許諾されている 5 者のうち製品の追加 1 者 1 品目、履歴の追加 2 者 2 品目、数量の追加 2 者 4 品目の申請がありました。これらの申請を審査委員会で審査した結果、6 者 12 品目に対し、2 月 28 日(火)付けで純国産絹マークを使用許諾する旨通知しました。

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(新規) くらしつむぐあとリエ 代表者名：嘉村亜紀子 (担当者：嘉村亜紀子) 〒 913-0046 福井県坂井市三国町北本町 3 丁目 3-32 TEL：0776-50-0150 表示者登録番号 249	白生地(表地) (越前奉書紬)	2 反	製品名 白生地(表地) 蚕品種 玉小石 繭生産 杉本英夫 製糸 自工房 製織 自工房
	白生地(帯地) (越前奉書紬)	1 本	製品名 白生地(帯地) 蚕品種 玉小石 繭生産 杉本英夫 製糸 自工房 製織 自工房
	白生地(帯地) (越前奉書紬) (天蚕糸入り)	1 本	製品名 白生地(帯地) 蚕品種 玉小石、天蚕 繭生産 杉本英夫、 富山県がうん天蚕の会 製糸 自工房 製織 自工房
	服飾品(ストール) (越前奉書紬)	9 枚	製品名 服飾品(ストール) 蚕品種 玉小石 繭生産 杉本英夫 製糸 自工房 製織 自工房
	服飾品(ストール) (先染) (越前奉書紬)	8 枚	製品名 服飾品(ストール)(先染) 蚕品種 玉小石 繭生産 杉本英夫 製糸 自工房 染色加工 Anemoi 製織 自工房

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(製品の追加) 株式会社綾の手 代表者名：秋山美恵子 (担当者：二上拓真) 〒 880-1302 宮崎県東諸県郡綾町北俣 4194 TEL：0985-77-0156 表示者登録番号 089	先染反物 (綾の手袖)	4 反	製品名 先染反物 (綾の手袖) 蚕品種 小石丸 繭生産 宮崎県内養蚕農家 製 糸 (株) 宮坂製糸所 染 織 自社
(履歴の追加) 日本蚕糸絹業開発協同組合 代表者名：小林幸夫 (担当者：間野和之) 〒 370-0006 群馬県高崎市問屋町 3-5-3 TEL：027-361-2377 表示者登録番号 021	裏地 (胴裏絹) (よろこび胴裏絹)	600 枚	製品名 裏地 (胴裏絹) 制作企画 絹小沢 (株) 繭生産 群馬県内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 製 織 齋栄織物 (株) 精練加工 鈴津
(履歴の追加) (株) 伊と幸 代表者名：北川幸 (担当者：北川幸) 〒 604-8176 京都市中京区御池通室町東入竜池町 448-2 TEL：075-211-2361 表示者登録番号 035	白生地 (帯地) (古代縮緬帯地)	220 本	製品名 白生地 (帯地) 蚕品種 松岡姫 繭生産 JA ふくしま未来管内養蚕農家 製 糸 松岡 (株)・(株) 宮坂製糸所 製 織 奥田重之織物
(数量の追加) (株) 千總 代表者名：西村真一 (担当者：三宅順) 〒 604-8166 京都市中京区三条通西入御倉町 80 TEL：075-211-2531 表示者登録番号 001	後染反物 (振袖) (五枚朱子)	150 反	製品名 後染反物 (振袖) 繭生産 岩手県・青森県内養蚕農家 製 糸 松岡 (株) 製 織 篠春織物 (株) 染色加工 自社
	後染反物 (訪問着) (紋意匠)	40 反	製品名 後染反物 (訪問着) 繭生産 山形県内養蚕農家 製 糸 松岡 (株) 製 織 田勇機業 (株) 染色加工 自社

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(数量の追加) 玉城柳子 代表者名：玉城柳子 (担当者：玉城柳子) 〒 901-1204 沖縄県南城市大里字稲嶺 2127-168 TEL：090-3795-1253 表示者登録番号 246	先染反物 (着尺(首里織))	8 反	製品名 先染反物(首里織) 蚕品種 ぐんま 200 繭生産 JA あがつま管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸(株) 染織 自工房
	先染帯地 (首里織)	2 本	製品名 先染帯地(首里織) 蚕品種 ぐんま 200 繭生産 JA あがつま管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸(株) 染織 自工房

次回の純国産絹マーク審査会の予定は次のとおりです。
 純国産絹マークの使用許諾を申請される方は、事務局との事前協議を経た上で、下記の提出締切日
 までに、純国産絹マーク使用許諾申請書を提出してください。

次回審査会 2023年度第1次：2023年5月23日(火)
 純国産絹マーク使用許諾申請書の提出締切日：2023年4月25日(火)

(連絡先)

〒100-0006

東京都千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館6階

一般財団法人大日本蚕糸会

担当：岡島、小林、廣瀬

TEL：03-3214-3500 FAX：03-3214-3511

E-mail：岡島：aokajima@silk.or.jp

小林：kobaei@silk.or.jp

廣瀬：hirose_takato@silk.or.jp

純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧 2023年2月28日(2022-第4次)現在

表示者 登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
001	(株)千總	京都市中京区	後染反物(振袖、訪問着、付下、色無地、色留袖、黒留袖、喪服)、胴裏
002	(株)織匠田歌	京都市上京区	先染反物、後染帯地
004	(株)丸上	東京都中央区	後染反物(色無地、小紋、付下、黒紋付)、後染帯地
005	(株)坂本屋	茨城県土浦市	後染反物(色無地)、胴裏(灰汁浸け加工)
006	(有)平原	福島県白河市	後染反物(色無地、黒紋付)
007	(株)信盛堂	東京都清瀬市	後染反物(色無地、黒紋付)
008	(株)きものアイ	新潟県十日町市	後染反物(色無地)
009	(株)上庵	岩手県北上市	後染反物(色無地、黒紋付)
010	(有)樹 (いづき)	秋田県横手市	後染反物(色無地、黒紋付)
011	(株)銀座もとじ	東京都中央区	後染反物(作家作品)、後染帯地、先染反物(大島紬、結城紬、御召、作家作品)、先染帯地(織九寸帯、織角帯、作家作品)、白生地、和装小物(帯締、羽織紐)、八掛、胴裏
012	河瀬満織物(株)	京都市上京区	先染帯地
013	(有)織匠小平	京都市北区	先染帯地
015	(株)結華	静岡県清水町	後染反物(色無地、黒紋付)
016	(有)絹回廊	東京都中央区	後染反物(色無地)
018	(有)大善屋呉服店	福島県会津若松市	後染反物(色無地、黒紋付)、後染帯地、白生地(表地)
020	呉服のささき	山形県天童市	後染反物(色無地、黒紋付)
021	日本蚕糸絹業開発協同組合 (絹小沢(株))	群馬県高崎市	裏地(胴裏(ぐんま羽二重、ぐんまレピア、ぐんま200、灰汁浸加工、トルマリン加工)、八掛、比翼地)、長襦袢地、後染反物(作家作品、紋付地)、白生地(世紀二一、上州絹星・ぐんま200、新小石丸)、後染帯地((冬物・夏物):うるし糸が5%を超えるもの)、寝衣(うぶ着、おくるみ)、和装小物(袱紗)
022	宮階織物(株)	京都市上京区	先染反物、後染反物
023	21世紀の絹を考える会	京都府城陽市	後染反物(色無地、訪問着)、先染帯地(袋帯(草木染、唐織))
024	碓氷製糸農業協同組合	群馬県安中市	白生地、マフラー
025	丸幸織物(有)	京都府京丹後市	白生地
026	織匠万勝	京都市中京区	先染帯地(袋帯、名古屋帯、袋帯:金銀糸が5%を超えるもの)、先染反物(御召類、着尺)、後染反物(色無地)
027	(有)織道染塩野屋	京都府亀岡市	洋装品(マフラー、シャツ、ニット(ウォーマー、腹巻、手袋、靴下))
028	(株)丸万中尾	滋賀県長浜市	後染反物(江戸小紋、小紋、付下、友禅、色無地、訪問着、留袖、色留袖)、後染帯地、白生地(表地)
029	(株)むらかね	青森県八戸市	後染反物(色無地、黒紋付)
030	(株)高島屋	大阪市中央区	後染反物(振袖、七五三着物、色無地、訪問着、黒留袖)、白生地(長襦袢地、胴裏)、ニット(靴下)、風呂敷
031	(株)さが美	神奈川県平塚市	後染反物(黒紋付(冬用・夏用)、色無地)

表示者 登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
032	(有) まるけい	静岡県富士市	後染反物 (色無地、黒紋付)
033	(有) 特選呉服専門店後藤	青森県むつ市	後染反物 (色無地、黒紋付)
034	(株) 小いけ	山形県鶴岡市	後染反物 (色無地、黒紋付、小紋)
035	(株) 伊と幸	京都市中京区	後染反物 (色無地、訪問着)、白生地 (表地、胴裏、帯地)、白生地 (表地 (天蚕糸交織))、白生地 (帯地 (天蚕糸交織))、婦人用ブラックフォーマル地、長襦袢
036	(株) 四季のきものおおにし	東京都杉並区	後染反物 (色無地、黒紋付)、後染帯地、白生地 (表地)
037	(株) 和幸	埼玉県久喜市	後染反物 (色無地、黒紋付)
038	(株) 榎屋高尾	京都市北区	先染帯地 (袋帯)
039	(株) つるや	埼玉県川越市	後染反物 (色無地、黒紋付)、白生地 (表地)
040	(株) 越後屋	千葉県市川市	後染反物 (色無地、黒紋付)
041	(株) 小倉商店	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)、白生地 (結城紬)
042	柳 崇 (染織家 柳崇)	東京都世田谷区	先染反物、先染帯地
043	児玉京子 (染織家 児玉京子)	沖縄県竹富町	先染反物、先染帯地
044	草木染工房山村 山村多榮子	東京都八王子市	先染反物、先染帯地、先染帯地 (金銀糸が5%を超える)、先染服地、ストール
045	手織りよおん 長嶺亨子	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地、服飾品 (ストール)
046	祝嶺染織研究所	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地
047	(株) 龍工房	東京都中央区	帯締
048	からん工房 深石美穂	沖縄県石垣市	先染反物 (紋紬、緋)、先染帯地
049	たわた工房	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
050	山音 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地 (変三越、駒紬))
051	やまと (株)	京都市下京区	後染反物
053	桜井 (株)	京都市北区	先染帯地
054	有栖川織物 (有)	京都市上京区	先染帯地
055	太田和 (株)	京都市中京区	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)
056	(株) 岩田	京都市中京区	先染帯地
057	(有) 神原呉服店	千葉県銚子市	後染反物 (色無地、黒紋付)
058	浅山織物 (株)	京都市北区	先染帯地
059	(株) やまと	東京都渋谷区	先染帯地、先染帯地 (金銀糸が5%を超えるもの)、白生地 (加賀友禅用)、先染着尺 (加賀友禅用)、和装小物 (帯揚)
060	田中種 (株)	大阪市中央区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、黒紋付、加賀友禅、色無地、すかし織着尺)、後染帯地 (九寸名古屋帯)、ニット (靴下、ネック&ボディ、ショルダー、アーム、タンクトップ、腹巻、手袋、ピロケース、肌襦袢、ネックウォーマー)、真綿布団、ハーフケット、布団カバー
061	(株) 京扇	東京都中央区	後染反物 (色無地)、胴裏 (パールトーン加工)
062	(株) なごみや	横浜市都筑区	後染反物 (色無地、黒紋付)

表示者 登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
063	丸池藤井 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)、八掛
064	久保商事 (株)	京都市中京区	和装小物 (帯揚、半衿)
065	加賀グンゼ (株)	石川県小松市	胴裏
066	千切屋 (株)	京都市中京区	後染反物 (訪問着、付下)、後染帯地
067	荒川 (株)	京都市下京区	和装小物 (帯締、帯揚)
069	(株) 紅輪 ((株) 紅輪 まるやま・京彩 グループ)	川崎市宮前区	後染反物 (色無地)、白生地 (表地 (紋意匠))
070	装いの道 (株)	東京都千代田区	白生地 (帯地、表地)、胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工、ぐんま 200、新小石丸)
071	(株) 高橋屋	岩手県一関市	胴裏 (灰汁浸加工)
072	おお又 (株)	大阪市旭区	胴裏 (灰汁浸加工)、ニット (靴下)
073	(株) 天野屋呉服店	栃木県小山市	胴裏 (ぐんま 200 (灰汁浸加工))、白生地 (表地)
074	(株) きもの潮見	愛媛県西条市	胴裏 (パールトーン加工)
075	(株) とみひろ	山形県山形市	胴裏 (酵素精練)、白生地
076	(株) 細安	福井県福井市	胴裏 (酵素精練)
077	京和きもの (株)	神奈川県厚木市	胴裏 (酵素精練)
078	(株) まるため	長野県長野市	胴裏 (トルマリン加工、パーリー加工)
079	(株) 小川屋	群馬県前橋市	胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工)
080	(株) エムラ	山口県防府市	胴裏 (酵素精練)
081	(株) 荒井呉服店	東京都八王子市	胴裏 (酵素精練)
082	(株) 牛島屋	富山県富山市	胴裏 (酵素精練)、後染反物 (小紋)
083	(株) 谷呉服店	福岡県筑紫野市	胴裏 (酵素精練)
084	(株) 登美屋	岩手県北上市	胴裏 (パールトーン加工)
085	(株) 川平屋	愛知県豊田市	胴裏 (パールトーン加工)、後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
087	(株) 大丸松坂屋百貨店	東京都江東区	裏地 (胴裏、比翼地 (振袖用))、長襦袢地
088	西陣織工業組合	京都市上京区	マフラー、セーター、カーディガン、ショール、ネクタイ
089	(株) 綾の手 (旧 (株) あきやま)	宮城県綾町	先染反物 (綾の手紬)、洋装品 (ショール、マフラー)
090	藤井絞 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)
092	(有) 結城屋	兵庫県洲本市	白生地 (表地)
093	(株) ウメショウ	岐阜県瑞穂市	白生地 (表地)
095	(有) カシワギ	山梨県富士吉田市	寝具寝装品 (冬用・夏用・合用薄絹ふとん、ブランケット)、洋装品 (スーツ地、ネクタイ、服飾品 (スカーフ、ストール、シャツ))
097	(株) 平田組紐	東京都豊島区	帯締、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)、羽織紐 (男物、女物)
098	(株) 菱健	京都市中京区	後染反物 (色無地)
099	西野 (株)	京都市上京区	帯締、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)
101	(株) 猪井	新潟県長岡市	後染反物 (色無地)、後染帯地

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
102	(株) たちばな	新潟県新発田市	後染反物 (色無地)、後染帯地
103	(株) 丸富美	新潟県十日町市	後染反物 (色無地)
104	(有) 絹もの屋まつなが	新潟県三条市	後染反物 (色無地)
105	(株) 山正山崎	愛知県豊橋市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
106	(有) こくぶん呉服店	福島県福島市	後染反物 (色無地)
107	(株) 染織近藤	岡山市北区	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
108	(株) 宮川呉服店	北海道湧別町	後染反物 (色無地、付下)
109	(株) 和らいふ	札幌市中央区	後染反物 (色無地)
110	(有) きものいなもと	大阪市天王寺区	後染反物 (色無地)
111	(株) 世きね	東京都中央区	後染反物
112	(株) 西陣まいづる	京都市上京区	先染帯地 (袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、絹九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
113	奥順 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)
114	りょうぜん天蚕の会	福島県伊達市	ショール (天蚕紬糸、天蚕ハイブリッド)
115	(有) 金屋	新潟県上越市	後染反物 (色無地)
116	(株) 鶴屋百貨店	熊本市中央区	胴裏 (酵素精練)、先染反物 (結城紬)
117	黄八丈めゆ工房	東京都八丈島	先染反物 (黄八丈)
118	京屋呉服店	長野県塩尻市	後染反物 (色無地)
119	(資) 車屋呉服店	横浜市南区	後染反物 (色無地、江戸小紋)、白生地 (表地)
120	宮崎 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)
121	(有) 内海呉服店 きもの千歳屋	東京都世田谷区	白生地 (表地 (色無地、訪問着、紋意匠))
122	長島繊維 (株)	栃木県足利市	後染反物 (色無地、小紋、付下、訪問着)、後染帯地
123	(株) しょう美	広島市西区	後染反物 (色無地)
124	(資) 治田呉服店	群馬県富岡市	後染反物 (色無地)
125	(株) 丸十	大阪府東大阪市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
126	(株) 竹田嘉兵衛商店	名古屋市緑区	胴裏 (酵素精練)
127	(有) 樋口屋京染店	埼玉県鴻巣市	白生地 (表地用 (紋意匠))
128	大門屋	福井県大野市	白生地 (牛首紬)、後染帯地 (牛首紬)、ショール (牛首紬)、先染反物 (飯田紬)、白生地着尺 (信州紬)
129	(株) 加藤萬	東京都中央区	和装小物 (帯揚、半衿)
130	(株) しゃらく	愛媛県新居浜市	後染反物 (小紋)
131	(資) 山中商店	名古屋市中区	後染反物 (小紋)
132	きもの処あだち	大阪府藤井寺市	後染反物 (小紋)
133	西川産業 (株)	東京都中央区	寝具寝装品 (掛布団)
134	繭工房華美	宮城県塩竈市	寝衣 (長肌着、短肌着)
136	(株) 和想	鳥取県鳥取市	後染反物 (小紋)
137	(株) 高島屋呉服店	島根県益田市	後染反物 (小紋)
138	富岡シルクブランド協議会	群馬県富岡市	ネクタイ、褌、マフラー (手織り)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
139	(株) 丸年呉服店	石川県金沢市	後染反物 (小紋)
140	(株) 染織館	徳島県徳島市	後染反物 (小紋)
141	(株) 京ろまん	奈良県奈良市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
142	五嶋 (株)	東京都文京区	帯締
143	(株) わふくや	浜松市中区	長襦袢地
144	(株) 布屋呉服店	静岡県富士宮市	胴裏 (トルマリン加工)、後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
145	(有) 明石屋	東京都調布市	後染反物 (色無地)、後染帯地
146	宮井 (株)	京都市下京区	風呂敷
147	(株) ナカノ	大分県大分市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、加賀友禅)
148	(株) 芦田呉服店	京都府綾部市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
149	(株) 甲斐絹座	山梨県富士吉田市	ネクタイ、服飾品 (スカーフ、ストール、トランクス)、パジャマ、袱紗
151	(株) 西松屋	兵庫県姫路市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
152	(株) 西尾呉服店	大阪市福島区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
153	勝山織物 (株)	京都市北区	先染帯地 (金銀糸が5%を超えるもの)
154	(有) 石川	群馬県みどり市	後染反物 (型友禅、羽二重色無地)、先染反物 (ジャガード織)
156	那覇伝統織物事業協同組合	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地、かりゆしウェア、服飾品 (ショール)
157	(株) ふじや	福岡県朝倉市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
158	きものおかだ	兵庫県香美町	後染反物 (小紋)
159	(株) J S	山梨県富士吉田市	寝具寝装品 (ふとん、ふとんカバー)、洋装品 (スーツ地、コート地、スカート地、シャツ、ワンピース地)、服飾品 (スカーフ、ストール、ネックカバー、アームカバー、レッグカバー)
160	(株) マルシバ	東京都中央区	裏地 (胴裏)、和装小物 (袱紗、ネクタイ、帯地 (白塩瀬))
161	(株) みつわ	大阪府大東市	後染反物 (小紋)
162	福紬織物 (株)	福岡市西区	先染帯地 (本袋男帯、八寸名古屋帯)
163	(株) 大谷屋	新潟市中央区	白生地 (表地)
164	(株) 東京藤屋 (きものレディ着付け学院)	東京都品川区	白生地 (表地)
166	近江真綿振興会	滋賀県米原市	寝具寝装品 (布団、膝かけ)、服飾品 (ショール)
167	(株) にしむら	兵庫県西脇市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
168	(有) きものおおにし	大阪府東大阪市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
169	(株) コノエ (そめの近江)	東京都豊島区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))、ニット (靴下)
170	(株) つたや	大阪府枚方市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
171	(株) 京呉服小糸伸輔の店	熊本市東区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
172	(株) マエノ	茨城県石岡市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
173	(株) 本きもの松葉	大阪府富田林市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
174	(有) 山田呉服店	長野県諏訪市	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
175	(株) 呉服のながいけ	長崎県南島原市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))

表示者 登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
176	(株) 京呉服平田	福井県福井市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
177	(株) 布四季庵ヨネオリ	山形県米沢市	先染反物 (置賜紬)、服飾品 (ストール)
178	奄美島絹推進協議会	鹿児島県龍郷町	先染反物 (大島紬)、先染帯地 (大島紬)
179	(株) 宮坂製糸所	長野県岡谷市	先染帯地 (八寸名古屋帯)
180	(有) シンセイ	長野県松本市	ニット (腹巻、靴下)
181	(株) 百花	横浜市中区	後染反物 (小紋 (変一越))
182	京呉服好一 (株)	京都市北区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
183	(株) パールトーン	京都市右京区	胴裏 (パールトーン加工)
184	きもの専科まさ井	兵庫県三木市	後染反物 (小紋 (変一越))
185	マテリアル ローブ 曆	東京都練馬区	後染反物 (小紋 (変一越))
186	(株) せんば呉服	兵庫県尼崎市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、訪問着)、先染反物 (併着尺)、後染帯地
187	(株) 三越伊勢丹	東京都新宿区	白生地 (表地)、帯締、羽織紐、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)、ジャケット地
188	青山きもの (株) (青山きもの学院)	東京都港区	白生地 (表地、夏物表地)
189	ニット青木 (株)	東京都品川区	ニット (スーツ・パンツ、スーツ・スカート、ジャケット、アンサンブル、インナー)
190	渡豊工房	山形県山辺町	先染反物 (綾御召 (男物、女物)、市松綾御召 (草木染め)、もじり織 (草木染)、もじり織、裏地 (紬八掛、駒八掛、紬駒八掛、紬綾八掛))、服飾品 (先染ストール (綾織草木染、もじり織草木染))
191	(株) リンクピース	福岡市博多区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
192	(有) 新宮 (きもの宮下)	宮崎県宮崎市	後染反物 (小紋 (変一越))
193	アトリエ I T O 伊藤峯子	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
194	遊生染織工房 築城則子	北九州市八幡東区	先染反物
195	杉浦晶子	愛知県高浜市	先染反物、先染帯地
196	(株) 夢工芸染の新井	東京都足立区	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
197	(株) 嵯が野	埼玉県川越市	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
198	(株) カインドウェア	東京都千代田区	服飾品 (ストール)、ネクタイ
199	(株) 新田	山形県米沢市	後染反物 (ぼかし着尺)
200	(株) ソーホー	京都市下京区	白生地 (紋意匠無地縮緬・紋意匠縮緬)、後染反物 (本加賀訪問着)、先染反物 (大島紬、御召)、先染帯地 (袋帯)、先染反物 (御召)
201	(株) すずのき	東京都品川区	後染反物 (訪問着・色無地)、白生地 (表地 (紋意匠))
202	メーカーズシャツ鎌倉 (株)	神奈川県鎌倉市	ニット (肌着)
203	(株) 丸本岩崎	北海道函館市	裏地 (胴裏絹)
204	(株) 緒方商店 (きもの心おがた)	愛媛県八幡浜市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
205	富士新幸 (株)	山梨県都留市	真綿布団
206	(有) 浅井ローケツ	京都市右京区	後染反物 (色無地・藍染)

表示者 登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
207	(有) 呉服のうめね	北九州市小倉北区	白生地 (変一越)
208	(株) ADESSO (きもの工房一休)	神戸市中央区	白生地 (変一越)
209	森秀織物 (株)	群馬県桐生市	先染反物 (御召)
210	(株) 龍村美術織物	京都市中京区	先染帯地 (本袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
211	(株) 長沼 (長沼静きもの学院)	東京都渋谷区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
212	(株) 国際商事	東京都板橋区	ショール
213	窪田織物 (株)	鹿児島県鹿児島市	先染反物 (大島紬、本場大島紬 (12 マルキ、15 マルキ))
214	村江菊絵 (菊江) (村江菊絵)	東京都目黒区	先染帯地、先染反物
215	片倉工業 (株)	東京都中央区	ニット (靴下)
216	村田捺染加工 (有)	群馬県桐生市	服飾品 (ストール)
217	(株) 京のきもの綾錦	京都市下京区	後染反物 (訪問着、小紋、色無地)
218	あや工房	沖縄県西原町	先染反物 (首里織)、先染帯地 (首里織)
220	万兵 (株)	名古屋市中区	白生地 (表地)
221	横山 (株)	京都市中京区	後染反物 (小紋・訪問着)
222	(株) カネヒサクリエーション	石川県金沢市	白生地 (表地)
223	柳晋哉	東京都世田谷区	先染反物、先染帯地
224	(株) 一声	京都市下京区	白生地 (表地)
225	(株) ヤマノホールディングス きもの事業本部	東京都渋谷区	後染反物 (小紋・訪問着)、白生地 (帯地)
226	山口美術織物 (株)	京都市山科区	白生地 (表地・羽二重)
227	(株) 大翻	名古屋市中区	セリシン靴下、セリシン手袋
228	(株) 中忠商店	京都市上京区	セリシン靴下、セリシン手袋
229	(株) 帛撰	京都市北区	先染帯地 (名古屋帯、袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
230	(株) 京朋	京都市中京区	白生地 (表地)
231	(有) 練巧	京都市北区	先染反物 (御召)、先染帯地 (名古屋帯 (組帯))
232	ウライ (株)	京都市下京区	後染反物 (小紋)、後染帯地 (袋帯 (表地のみ))
233	大橋メリヤス	群馬県桐生市	服飾品 (ニットストール)
234	宮田織物 (株)	京都市北区	先染帯地 (袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
235	(有) 中彦	京都市上京区	先染反物 (御袷裳 (五条袷裳))
236	大月俊幸	長野県安曇野市	先染帯地 (名古屋帯)、先染着尺 (信州紬)
237	久保原由佳理	長野県安曇野市	先染帯地 (名古屋帯)、先染着尺 (信州紬)
238	(株) やしま	広島県広島市	白生地 (表地 (紋意匠))
239	(株) 長谷川	京都市上京区	先染反物 (西陣お召)
240	永見 (株)	鳥取県米子市	白生地 (表地 (紋意匠))
241	京都和装 (株)	京都市下京区	白生地 (表地 (紋意匠))
242	(株) 前田源商店	山梨県富士吉田市	服飾品 (スカーフ、ストール)
243	近江真綿工房 原田	滋賀県米原市	寝具寝装品 (真綿ふとん (国産近江真綿ふとん))
244	昭和西川 (株)	東京都中央区	寝具寝装品 (真綿ふとん)
245	大迫織物 (株)	鹿児島県鹿児島市	先染反物 (大島紬)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
246	玉城柳子	沖縄県南城市	先染反物(着尺(首里織))、先染帯地(首里織)
247	丸八生糸(株)	京都市上京区	白生地(表地)
248	(株)高島織物	京都市北区	白生地(表地)
249	くらしつむぐあとリエ	福井県坂井市	白生地(表地、帯地)、服飾品(ストール)

月日	活 動 内 容 等
1/20	蚕糸褒賞等選考委員会 (褒賞規程の改正について、リアル・WEB 併用会議)
2/21	純国産絹マーク審査会 (2022 年度第 4 次) (リアル・WEB 併用会議)
2/22	全国シルクビジネス協議会交流会 (リアル・WEB 併用)
3/15	臨時蚕糸褒賞等選考委員会 (表彰候補者について、リアル・WEB 併用会議)
3/16	全国シルクビジネス協議会事業検討委員会 (リアル・WEB 併用会議)
3/23	大日本蚕糸会通常理事会及び臨時評議員会 (東京都有楽町 蚕糸会館)

蚕糸絹関係博物館一覧

名 称	〒	住 所	電 話
野外博物館北海道開拓の村	004-0006	北海道札幌市厚別区厚別町小野幌 50-1	011-898-2692
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-23-3525
夕鶴の里資料館 語り部の館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025 - 2	0238-47-5800
松ヶ岡開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ岡 29	0235-62-3985
公益財団法人致道（ちどう）博物館	997-0036	山形県鶴岡市家中新町 10 - 18	0235-22-1199
酒田市美術館	998-0055	山形県酒田市飯森山三丁目 17 - 95	0234-31-0095
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
結城市伝統工芸館	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018 - 1	0296-32-7949
紬の里	307-0001	茨城県結城市結城 2515	0296-32-8002
本場結城紬郷土館	307-0000	茨城県結城市浦町 116	0296-32-2121
本場結城紬染織資料館「手緒里」	307-0001	茨城県結城市結城 12-2	0296-33-3111
佐野市郷土博物館	327-0003	栃木県佐野市大橋町 2047	0283-22-5111
おやま本場結城紬クラフト館	323-0023	栃木県小山市中央町 3-7-1 ロブレビル 1F	0285-32-6477
足利織物伝承館	326-0814	栃木県足利市通 3-2589	0284-22-3004
足利まちなか遊学館	326-0814	栃木県足利市通 1-2673-1	0284-41-8201
足利織姫神社	326-0817	栃木県足利市西宮町 3889	0284-22-0313
那須野が原博物館	329-2752	栃木県那須塩原市三島 5 - 1	0287-36-0949
高崎市歴史民俗資料館	370-0027	群馬県高崎市上滝町 1058	027-352-1261
群馬県立歴史博物館	370-1293	群馬県高崎市綿貫 992 - 1（群馬の森公園内）	027-346-5522
おかいこステーション	370-3401	群馬県高崎市倉渕町権田 5344 - 1235	027-340-6060
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
富岡製糸場	370-2316	群馬県富岡市富岡 1 - 1	0274-64-0005
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地（敷島公園バラ園内）	027-231-9875
織物参考館“紫（ゆかり）”	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
桐生織物記念館（桐生織物協同組合）	376-0044	群馬県桐生市永楽町 6 - 6	0277-43-2510
コノドント館みどり市大間々博物館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
たくみの里	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-2211
群馬県立世界遺産センター（セカイト）	370-2316	群馬県富岡市富岡 1450-1	0274-67-7821
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
ちちぶ銘仙館	368-0032	埼玉県秩父市熊木町 28-1	0494-21-2112
秩父ふるさと館	368-0044	埼玉県秩父市本町 3-1	0494-23-7300
きもの芸術館（一般財団法人国際文化きもの学会）	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F～8F	03-3400-0286
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3 - 22 - 7	03-3299-2387
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3 - 26 - 2	0424-81-7656
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2 - 24 - 16	042-388-7163
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989 - 2	0426-76-4064
桑都日本遺産センター 八王子博物館	192-0904	東京都八王子市子安町 4-7-1 サザンスカイツワー 3 階	042-622-8939

名 称	〒	住 所	電 話
町田市立博物館	194-0032	東京都町田市本町田 3562	042-726-7531
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
シルク博物館	231-0023	横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
神奈川県立歴史博物館	231-0006	横浜市中区南仲通 5-60	045-201-0926
相模田名民家資料館	229-1124	相模原市緑区田名 4853 番 2 (大杉公園隣り)	042-761-7118
相模原市立博物館	252-0221	神奈川県相模原市中央区高根 3-1-15	042-750-8030
海老名市立郷土資料館「海老名市温故館」	243-0405	神奈川県海老名市国分南 1-6-36	046-233-4028
一般財団法人繊維産業会レインボープラザ(愛川繊維会館)	243-0307	神奈川県愛甲郡愛川町半原 4410	046-281-0356
愛川町郷土資料館	243-0307	神奈川県愛甲郡愛川町半原 5287 (県立あいかわ公園内)	046-280-1050
小千谷織物工房 小千谷織物同業協同組合	947-0028	新潟県小千谷市城内 1-8-25 小千谷市総合産業会館サンプラザ内	0258-83-2329
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1 - 8 - 25	0258-83-4800
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
塩沢つむぎ記念館(織の文化館)	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227 - 14	0257-82-4888
白山工房(織りの資料館)	920-2501	石川県白山市白峰村又 17	076-259-2859
はたや記念館ゆめおーれ勝山	911-0802	福井県勝山市昭和町 1 - 7 - 40	0779-87-1200
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619 - 1	055-269-3399
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
常田館(絹の資料館)	386-0018	長野県上田市常田 1 - 10 - 3 笠原工業(株)内	0268-22-1230
繊維学部資料館	386-8567	長野県上田市常田 3-15-1 信州大学繊維学部内	0268-21-5454
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号(上田城跡公園内)	0268-22-1274
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564 - 1	0268-42-2158
絹糸紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ(株)内	0268-41-1800
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
日本司法博物館(松本歴史の里)	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196 - 1	0263-47-4515
岡谷蚕糸博物館(シルクファクトおかや)	394-0021	長野県岡谷市郷田 1 丁目 4 番 8 号	0266-23-3489
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618 - 24	0263-83-3835
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299 - 1	0574-28-1110
豊田市稲武郷土資料館ちゅーま	441-2524	愛知県豊田市黒田町南水別 713	0565-82-3439
豊橋市民俗資料収蔵室	440-0021	愛知県豊橋市多米町滝の谷 34-1-1	0532-63-2026
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204 - 1	059-293-0010
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野外 514	0749-37-4131
織物文化館	601-1123	京都市左京区静市市原町 265 川島織物セルコン内	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
(公財)手織技術振興財団・織成館	602-8482	京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
千總ギャラリー	604-8166	京都市中京区御倉町 80 番地千總本社ビル 2 階	075-211-2531
絹の白生地資料館	604-8176	京都市中京区龍池町 448 - 2 伊と幸ビル	075-254-5884

名 称	〒	住 所	電 話
まゆ村	616-8384	京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
グンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ(株)周辺敷地内	0773-43-1050
織元田勇	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112 田勇機業(株)内	0772-72-0307
上垣守国(うえがきもりくに)養蚕記念館	667-0321	兵庫県養父市大屋町蔵垣 246 - 2	079-669-1580
デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)	651-0082	神戸市中央区小野浜町 1-4	078-325-2201
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町越知甲 1577 番地	0889-26-1002
藤村製絲記念館	781-6402	高知県安芸郡奈半利町乙 2630	0887-38-4711
美馬蚕糸会館	771-2107	徳島県美馬市美馬町谷口 5-1	0883-63-2502
アヤミハビル館	907-1801	沖縄県八重山郡与那国町与那国 2114	0980-87-2440

蚕糸絹関係機関ホームページ一覧

【行政】

農林水産省
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>
<http://www.meti.go.jp>

【蚕糸絹業関係団体】

(一財) 大日本蚕糸会
(一財) 大日本蚕糸会 ジャパンシルクセンター
(一社) 日本絹人繊維物工業会
(一財) 日本真綿協会
丹後織物工業組合
西陣織工業組合
T A F S (東京織物卸商業組合)
K O M S (京都織物卸商業組合)
(公財) 京都和装産業振興財団
(一財) 伝統的工芸品産業振興協会
蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会

<http://www.silk.or.jp>
<http://www.silk-center.or.jp>
<http://www.kinujinsen.com>
<http://www.mawata.or.jp>
<http://www.tanko.or.jp>
<http://www.nishijin.or.jp>
<http://www.tafs.or.jp>
<http://www.fashion-kyoto.or.jp>
<http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html>
<http://www.kougeihin.jp>
<http://takaraginu.com>

【大学・試験研究機関】

(国研) 農業・食品産業技術総合研究機構 <http://www.naro.affrc.go.jp>
(国) 北海道大学応用分子生物学分野応用分子昆虫学研究室 <http://www.agr.hokudai.ac.jp/rfoa/abs/abs2-1.html>
(国) 岩手大学農学部生命資源科学コース応用昆虫学研究室 <http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/department2/agri/life.html>
(国) 宇都宮大学農学部分子昆虫学研究室 <http://shigen.mine.utsunomiya-u.ac.jp/insectbiotechnology/>
(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室
<http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>
(国) 東京農工大学農学部生物生産学科蚕学研究室 <http://www.tuat.ac.jp/~kaiko>
(国) 東京農工大学工学部生命工学科 <http://www.tuat.ac.jp/~seimei>
(国) 名古屋大学農学部 <http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>
(国) 信州大学繊維学部 <http://www.tex.shinshu-u.ac.jp>
(国) 京都工芸繊維大学工芸科学部応用生物学課程 <http://www.bio.kit.ac.jp>
(国) 鳥取大学農学部生物資源環境学科昆虫機能学教育研究分野 <http://muses.muses.tottori-u.ac.jp>
(国) 山口大学農学部生物資源環境科学府蚕学研究室 <http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>
(国) 九州大学大学院生物資源環境科学府蚕学研究室 <http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/sangaku>
(国) 九州大学大学院農学研究院遺伝子資源開発研究センター家蚕遺伝子開発分野
<http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/sanshi/insect/top.html>
群馬県蚕糸技術センター <http://www.pref.gunma.jp/07/p14710007.html>
群馬県繊維工業試験場 <http://www.pref.gunma.jp/07/p20210013.html>
京都府織物・機械金属振興センター <http://www.pref.kyoto.jp/oriki>
(地独) 京都市産業技術研究所 <http://www.tc-kyoto.or.jp>
(公財) 衣笠繊維研究所 <http://krf-textile.com>
(一財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学技術研究所 <http://www.silk.or.jp>

【学会】

日本シルク学会
(一社) 日本蚕糸学会
日本野蚕学会

<http://jssst.sakura.ne.jp>
<http://jsss.or.jp>
<http://jswsmo.appspot.com>

【博物館】

(一財) シルクセンター国際貿易観光会館 シルク博物館
群馬県立日本絹の里
愛媛県西予市野村シルク博物館
東京農工大学科学博物館

<https://www.silkcenter-kbkk.jp/museum/>
<https://www.nippon-kinunosato.or.jp>
<http://www.city.seiyo.ehime.jp/soshiki/silkmuseum>
<http://www.tuat.ac.jp/~museum>

【博物館】

駒ヶ根シルクミュージアム

織成館（京都市上京区）

高崎市染料植物園

群馬県立歴史博物館

岡谷蚕糸博物館（シルクファクトおかや）

はたや記念館ゆめおーれ勝山

美馬蚕糸館

北海道開拓の村

<http://komagane-silk.com/>

<http://orinasukan.skr.jp>

<http://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/201401140097>

<http://grekisi.pref.gunma.jp>

<http://silkfact.jp>

<http://www.city.katsuyama.fukui.jp/hataya>

<https://mimasanshikan.wixsite.com/mimasanshikan>

<https://www.kaitaku.or.jp>

【富岡製糸場と絹産業遺産群】

富岡製糸場

群馬県立世界遺産センター

ぐんま絹遺産

上毛新聞社関連記事

<http://www.tomioka-silk.jp/hp/index.html>

<https://worldheritage.pref.gunma.jp/whc/>

<http://worldheritage.pref.gunma.jp/kinuisan>

http://jomo-news.co.jp/ns/series/silk_index.html

統計資料の年間掲載計画

＜国内＞	1月号	4月号	7月号	10月号
(1) 蚕糸絹業の概要	○	○	○	○
(2) 養蚕農家数	○	○	○	○
(3) 繭生産数量の推移	○	○	○	○
(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数		○		
(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量		○		
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移		○		
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	○	○	○	○
(8) 生糸の織度別生産数量の推移		○		○
(9) 絹需給の推移(生産量換算試算)	○	○	○	○
(10) 品目別・二次製品輸入数量(生糸量換算試算)		○		
(11) 製糸工場の原料繭需給	○	○	○	○
(12) 製糸工場の操業状況	○	○	○	○
(13) 生糸在庫数量の内訳	○	○	○	○
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況		○		
(15) 生糸の原産国別輸入数量		○		○
(16) 絹糸の原産国別輸入数量		○		○
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価		○		○
(18) 絹織物生産数量	○	○	○	○
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	○	○	○	○
＜海外＞				
(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	○	○	○	○
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量		○		
(3) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	○	○	○	○

統計資料目次

<国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	40
(2) 養蚕農家数の推移	41
(3) 繭生産数量の推移	42
(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数	43
(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量	44
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移	45
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	46
(8) 生糸の織度別生産数量の推移	47
(9) 絹需給の推移（生糸量換算試算）	48
(10) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）	49
(11) 製糸工場の原料繭需給	50
(12) 製糸工場の操業状況	51
(13) 生糸在庫数量の内訳	52
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況	53
(15) 生糸の原産国別輸入数量	54
(16) 絹糸の原産国別輸入数量	55
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価	56
(18) 絹織物生産数量	57
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	58

<海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	60
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	61
(3) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	62

一資料・国内一

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 Item 暦年 Calendar Year	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk- Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production	1戸当 収繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
2000	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
2005	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
2010	756	265	351	0.9	7	49	35.9	3,611
2011	627	220	351	0.7	7	52	34.7	3,152
2012	571	202	354	0.5	7	35	33.3	2,912
2013	486	168	346	0.4	9	35	32.0	2,940
2014	393	149	379	0.4	9	35	—	2,734
2015	368	135	367	0.4	8	30	—	2,316
2016	349	130	372	0.3	8	26	—	2,243
2017	336	125	372	0.3	8	28	—	2,195
2018	293	110	375	0.3	8	46	—	2,113
2019	264	92	348	0.3	8	36	—	1,939
2020	228	80	351	0.2	8	31	—	1,214
2021	186	61	328	0.2	7	20	—	1,279
2022	163	51	313	0.2	7	22	—	—
前年比(%) 2022/2021	87.6	83.6	95.4	100.0	100.0	110.0	—	—

資料 ・ 2008年以前の養蚕業及び製糸業は、農林水産省調査によるものである。

・ 2009年以降の養蚕業は、全国農業協同組合連合会及び(一財)大日本蚕糸会調査、2011年以降は(一財)大日本蚕糸会調査である。

・ 2009年以降の製糸業は、中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会調査、2018年11月以降は(一財)大日本蚕糸会調査である。

・ 2008年以前の絹業は経済産業省調査であり、2009年以降絹業は(一社)日本絹人織織物工業会調査である。

(注) 2006年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。

(注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、2002年以降はすべての製糸工場のものである。

Source: ・ Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling, before 2008)

・ National Federation of Agricultural Co-operative Associations and the Dainippon Silk Foundation (Sericultural Industry, after 2009). The Dainippon Silk Foundation (after 2011)

・ Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (Silk-Reeling, after 2009) The Dainippon Silk Foundation (after Nov. 2018)

・ The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric, before 2008). Japan Silk & Rayon Weaver's Association (after 2009)

Note: Silk Fabric Production from 2006 includes spun silk fabrics.

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills. (After 2002, all reeling mills)

(2) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)
(Unit: number)

暦年 Calendar Year 項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
2000	3,280	2,970	2,170	2,700
2005	1,591	1,420	1,061	1,345
2010	756	650	494	637
2011	627	562	358	531
2012	571	514	319	462
2013	486	422	260	399
2014	393	359	230	328
2015	368	323	221	313
2016	349	310	209	310
2017	336	307	201	280
2018	293	254	179	262
2019	264	233	153	224
2020	228	205	129	188
2021	186	161	98	156
2022	163	146	89	142
前年比(%) 2022/2021	87.6	90.7	90.8	91.0

資料：農林水産省統計情報部（～2001年） 全国農業協同組合連合会（2002年～2004年）

農林水産省生産局（2005年～2008年）（一財）大日本蚕糸会（2009年～）

Source: The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).

National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008).

The Dainippon Silk Foundation (2009～).

(3) 繭生産数量の推移 Cocoon Production

項目 Item 暦年 Calendar Year	年計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm			
	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
	t	t	t	t	kg	kg	kg	kg
2000	1,244	500	320	424	379	169	148	157
2005	626	243	165	218	396	171	156	162
2010	265	107	60	98	351	165	121	154
2011	220	95	49	76	351	169	136	143
2012	202	79	50	73	354	155	156	159
2013	168	61	41	67	346	145	158	168
2014	149	55	36	58	379	153	157	176
2015	135	49	32	54	368	151	147	174
2016	130	47	32	50	372	153	155	162
2017	125	47	29	49	372	153	144	175
2018	110	41	24	46	375	161	134	176
2019	92	35	22	35	348	150	144	156
2020	80	31	19	30	351	151	147	160
2021	61	22	15	24	328	137	153	154
2022	51	20	13	18	313	137	146	127
前年比(%) 2022/2021	83.6	91.4	86.2	75.0	95.4	99.8	95.4	82.5
2022年 構成比(%)	100.0	39.5	24.7	35.9				

資料：農林水産省統計情報部（～2001年） 全国農業協同組合連合会（2002年～2004年）

農林水産省生産局（2005年～2008年） （一財）大日本蚕糸会（2009年～）

Source: The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).

National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008).

The Dainippon Silk Foundation (2009～).

(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数

Farm households raising silk-worm by prefectures

(単位：戸、%)

都府県名	春蚕期			初秋蚕期			晩秋蚕期			年 間		
	2021年 (R3)	2022年 (R4)	前年対比									
岩手県	5	4	80.0	4	4	100.0	5	4	80.0	6	4	66.7
宮城県	6	8	133.3	6	6	100.0	9	9	100.0	10	11	110.0
山形県	3	1	33.3	-	-	-	2	2	100.0	3	2	66.7
福島県	13	13	100.0	14	10	71.4	15	13	86.7	17	14	82.4
茨城県	4	3	75.0	4	4	100.0	4	4	100.0	5	4	80.0
栃木県	15	17	113.3	10	13	130.0	16	17	106.3	18	18	100.0
群馬県	61	55	90.2	35	30	85.7	59	53	89.8	68	59	86.8
埼玉県	14	11	78.6	11	8	72.7	13	10	76.9	14	11	78.6
千葉県	4	3	75.0	3	3	100.0	4	3	75.0	4	4	100.0
東京都	1	1	100.0	-	-	-	1	-	-	1	1	100.0
山梨県	5	1	20.0	-	-	-	2	1	50.0	5	1	20.0
長野県	9	9	100.0	3	3	100.0	11	9	81.8	12	11	91.7
岐阜県	6	5	83.3	-	-	-	4	6	150.0	7	8	114.3
愛知県	1	1	100.0	-	-	-	-	-	-	1	1	100.0
滋賀県	1	1	100.0	-	-	-	-	-	-	1	1	100.0
愛媛県	9	9	100.0	5	6	120.0	8	8	100.0	9	9	100.0
熊本県	2	2	100.0	-	-	-	2	2	100.0	2	2	100.0
宮崎県	2	2	100.0	3	2	66.7	1	1	100.0	3	2	66.7
全国計	161	146	90.7	98	89	90.8	156	142	91.0	186	163	87.6

資料：(一財)大日本蚕糸会

Source: The Dainippon Silk Foundation

(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量
Cocoon production by prefectures

(単位：kg、%)

都府県等	春 蚕 期			初 秋 蚕 期			晚 秋 蚕 期			年 間		
	2021年 (R3)	2022年 (R4)	前年比 (%)									
岩手県	371.5	373.0	100.4	266.2	256.3	96.3	499.3	487.7	97.7	1,137.0	1,117.0	98.2
宮城県	610.0	854.3	140.0	756.9	501.0	66.2	1,079.5	861.8	79.8	2,446.4	2,217.1	90.6
山形県	681.7	282.3	41.4	-	-	-	574.6	533.3	92.8	1,256.3	815.6	64.9
福島県	2,520.2	2,724.1	108.1	3,258.1	2,370.7	72.8	4,235.5	3,696.5	87.3	10,013.8	8,791.3	87.8
茨城県	516.7	357.7	69.2	341.4	353.9	103.7	452.1	320.5	70.9	1,310.2	1,032.1	78.8
栃木県	4,105.2	4,344.8	105.8	1,891.1	2,159.3	114.2	5,206.2	3,598.3	69.1	11,202.5	10,102.4	90.2
群馬県	8,050.0	7,174.6	89.1	5,287.4	4,899.7	92.7	7,970.6	5,952.5	74.7	21,308.0	18,026.8	84.6
埼玉県	1,748.2	1,586.0	90.7	981.1	710.7	72.4	1,451.8	946.6	65.2	4,181.1	3,243.3	77.6
千葉県	449.4	353.3	78.6	266.7	216.3	81.1	498.0	463.6	93.1	1,214.1	1,033.2	85.1
東京都	43.2	45.6	105.6	-	-	-	40.4	-	-	83.6	45.6	54.5
山梨県	419.1	116.0	27.7	-	-	-	283.0	42.3	14.9	702.1	158.3	22.5
長野県	632.8	565.0	89.3	475.8	345.0	72.5	888.4	562.5	63.3	1,997.0	1,472.5	73.7
岐阜県	466.8	281.7	60.3	-	-	-	119.3	14.3	12.0	586.1	296.0	50.5
愛知県	18.2	25.9	142.3	-	-	-	-	-	-	18.2	25.9	142.3
滋賀県	10.6	10.8	101.9	-	-	-	-	-	-	10.6	10.8	101.9
愛媛県	1,244.2	912.0	73.3	1072.7	773.0	72.1	1,088.5	797.2	73.2	3,405.4	2,482.2	72.9
熊本県	111.1	95.6	86.0	-	-	-	87.5	77.2	88.2	198.6	172.8	87.0
宮崎県	109.7	107.2	97.7	64.6	54.1	83.7	18.2	21.5	118.1	192.5	182.8	95.0
全国計	22,108.6	20,209.9	91.4	14,662.0	12,640.0	86.2	24,492.9	18,375.8	75.0	61,263.5	51,225.7	83.6

資料：(一財)大日本蚕糸会

Source: The Dainippon Silk Foundation

(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移
Production by Sort of Silk-Worm Eggs

Item	Year	2019年 (令和1年)		2020年 (令和2年)		2021年 (令和3年)		2022年 (令和4年)	
		箱 box	割合 rate %						
錦 秋 × 鐘 和		2,115	34.9	1,593	29.9	1,630	36.3	1,480	32.8
春 嶺 × 鐘 月		1,094	18.1	1,274	23.9	884	19.7	704	15.6
ぐ ん ま 2 0 0		643	10.6	669	12.6	616	13.7	653	14.5
錦秋1号 × 鐘和1号		781	12.9	520	9.8	339	7.6	427	9.5
な つ こ		6	0.1	216	4.1	153	3.4	281	6.2
春嶺1号 × 鐘月1号		383	6.3	302	5.7	220	4.9	220	4.9
緑 繭 2 号		75	1.2	95	1.8	106	2.4	157	3.5
新 小 石 丸		115	1.9	81	1.5	122	2.7	132	2.9
小 石 丸		26	0.4	56	1.1	48	1.1	101	2.2
かいりょう × あげぼの		87	1.4	95	1.8	68	1.5	84	1.9
ぐ ん ま 細		80	1.3	54	1.0	71	1.6	80	1.8
松 岡 姫		171	2.8	85	1.6	55	1.2	40	0.9
プ ラ チ ナ ボ ー イ		52	0.9	51	1.0	41	0.9	34	0.8
玉 小 石		25	0.4	24	0.5	17	0.4	28	0.6
朝 日 × 東 海		26	0.4	15	0.3	28	0.6	22	0.5
お り ひ め		12	0.2	12	0.2	9	0.2	18	0.4
ぐ ん ま 黄 金		27	0.4	9	0.2	12	0.3	11	0.2
奄 美 黄 金		7	0.1	10	0.2	10	0.2	10	0.2
黄 白		8	0.1	8	0.2	8	0.2	8	0.2
青 熟 × C5・505		6	0.1	11	0.2	10	0.2	7	0.2
青 熟 × C5・C6		10	0.2	10	0.2	5	0.1	6	0.1
N5・N6 × TY40		5	0.1	4	0.1	3	0.1	3	0.1
MCS107 × セヴェンヌ白		155	2.6	60	1.1	4	0.1	2	0.0
白 繭 細 1 号		45	0.7	52	1.0	21	0.5		
極 細 3 号						9	0.2		
白 麗		60	1.0	20	0.4				
蚕 技 研 11 号		17	0.3						
大 寶 × 黄 金		15	0.2						
上 州 絹 星		14	0.2						
合 計 Total		6,060	100.0	5,326	100.0	4,489	100.0	4,508	100.0

資料: (一財)大日本蚕糸会

Source : The Dainippon Silk Foundation

備考 : 「おりひめ」は2019年にQL26×BLG5として表記されていたものである。

Remarks : ORIHIME was displayed as QL26×BLG5 in 2019.

(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量	輸入数量	輸出数量	国内引渡数量	期末在庫数量	輸入数量	輸出数量	輸入数量	輸出数量
	Production (A)	Imports (B)	Exports (C)	Domestic Deliveries (D)	Ending Stocks (E)	Imports (F)	Exports (G)	Imports (H)	Exports (I)
暦年 Calendar Year	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
2015	378	6,479	0	7,194	1,410	14,051	302	5,468	5,085
2016	317	6,548	0	6,869	1,406	12,094	177	5,207	4,940
2017	339	7,560	1	7,557	1,747	14,560	245	4,897	4,785
2018	339	5,038	1	5,793	1,330	11,092	213	4,151	4,854
2019	269	4,852	4	5,018	1,429	10,920	165	3,893	4,750
2020	203	2,443	0	3,009	1,066	6,226	167	2,551	3,635
2021	160	3,067	0	3,425	868	6,136	144	2,753	3,850
2022	168	3,646	1	3,754	927	7,945	182	2,803	3,726
2021 - 1	11	123	0	141	1,059	428	6	273	286
2	14	118	0	175	1,016	504	4	199	299
3	16	371	0	414	989	339	7	223	379
4	12	5	0	121	885	451	5	253	363
5	12	506	0	479	924	460	20	202	351
6	13	178	0	200	915	619	13	251	377
7	13	266	0	303	891	772	12	242	281
8	12	244	0	234	913	585	9	188	198
9	12	389	0	470	844	433	9	251	231
10	14	219	0	236	841	451	14	216	390
11	18	323	0	313	869	480	21	231	306
12	13	322	0	336	868	614	24	218	390
2022 - 1	12	379	0	436	823	588	2	264	233
2	8	222	0	199	854	484	32	162	316
3	19	541	0	481	933	667	33	178	348
4	15	—	1	159	788	412	30	214	355
5	13	500	0	476	825	857	7	256	326
6	15	426	0	313	953	703	7	256	355
7	12	291	0	333	923	893	19	227	330
8	16	473	0	411	1,001	764	17	224	290
9	16	149	0	222	944	688	10	248	283
10	14	187	0	347	798	642	4	262	323
11	12	297	0	227	880	739	9	287	310
12	16	180	0	149	927	509	11	226	258
2023 - 1	13	271	0	345	866	650	10	209	182

資料：(A) (C) (D) (E) 農林水産省生産局（～2010.3） 中央蚕糸協会及び日本生糸問屋協会（2010.4～2012.11）

中央蚕糸協会（2012.12～2018.10）（一財）大日本蚕糸会（2018.11～）(B) (F) (G) (H) (I) 財務省関税局

備考：1. 国内引渡数量(D) = {前月在庫数量+(A)+(B)} - {(C)+(E)}。

2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

3. (D)と(E)は2012年11月までと同年12月以降調査方法が変更したため連続性はない。

Source：(A) (C) (D) (E) The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（～2010.3）、Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (2010.4～2012.11)、Central Raw Silk Association (2012.12～2018.10). The Dainippon Silk Foundation (2018.11～) (B) (F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1. Domestic deliveries(D)={Stock at end of the previous month+(A)+(B)}-{(C)+(E)}.

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(8) 生糸の織度別生産数量の推移
Raw Silk Production by Sizes

(単位：60kg俵)
(Unit：Bales of 60kg)

項目 Item	生 糸 Raw Silk					
	計 Total	18デニール以下 17/19or 17/19 finer	21デニール 20/22	27デニール 26/28	31デニール 30/32	その他 Others
年 月 Year & Month						
暦 年 Calendar Year						
2015	378	0	146	86	36	110
2016	317	0	98	103	38	78
2017	339	0	107	95	53	84
2018	339	0	106	104	65	63
2019	269	1	102	46	30	90
2020	203	1	51	76	4	71
2021	160	0	39	52	10	59
2022	168	0	38	50	12	68
2021 -						
1	11	—	6	0	0	5
2	14	—	4	3	0	7
3	16	—	5	6	0	5
4	12	—	6	2	0	4
5	12	—	2	5	0	5
6	13	—	1	8	0	4
7	13	—	2	5	0	6
8	12	—	3	5	0	4
9	12	—	1	7	2	2
10	14	—	1	5	2	6
11	18	—	3	5	3	7
12	13	—	5	1	3	4
2022 -						
1	12	—	4	4	1	3
2	8	—	3	3	0	2
3	19	—	5	7	0	7
4	15	—	0	7	5	3
5	13	—	0	8	0	5
6	15	—	2	7	0	6
7	12	—	3	2	1	6
8	16	—	4	2	1	9
9	16	—	5	4	1	6
10	14	—	5	4	0	5
11	12	—	5	2	1	4
12	16	—	2	0	2	12
2023 -						
1	13	—	3	3	2	5

資料：農林水産省生産局(～2010.3) 中央蚕糸協会(2010.4～2018.10) (一財)大日本蚕糸会(2018.11～)

備考：kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).

Central Raw Silk Association (2010.4～2018.10). The Dainippon Silk Foundation (2018.11～)

Remarks：Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(9) 絹需給の推移 (生糸量換算試算)

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit: 1,000Bales of 60kg)

項目 Item 暦年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④						期末 在庫 Ending Stocks ④	
	期初 在庫 Opening Stocks	生産 Production	輸入 Import					輸出 Export				内需 Domestic Demand ②-③				
			計 Total	生糸 Raw Silk	絹糸 Silk Yarn	織物 Fabrics	二次 The Second	計③ Total	生糸 Raw Silk	絹糸 Silk Yarn	織物 Fabrics		二次 The Second			
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2010	225	47	1	177	12	16	16	133	182	16	0	0	15	1	166	43
2011	227	43	1	183	9	18	14	142	180	16	0	0	15	1	164	47
2012	230	47	1	182	10	16	14	142	184	15	0	0	14	1	169	46
2013	248	46	0	202	9	16	13	164	203	14	0	0	13	1	189	45
2014	225	45	0	180	8	15	12	145	180	14	0	0	13	1	166	45
2015	221	45	0	176	6	14	11	145	176	17	0	0	12	5	159	45
2016	240	45	0	195	7	12	14	162	195	15	0	0	9	6	180	45
2017	239	45	0	194	8	15	9	162	194	21	0	0	11	10	172	45
2018	205	45	0	160	5	11	8	135	160	26	0	0	10	16	134	45
2019	206	45	0	161	5	11	8	137	161	25	0	0	10	15	136	45
2020	182	45	0	137	2	6	6	123	137	27	0	0	8	19	110	45
2021	175	45	0	130	3	6	6	115	130	24	0	0	8	16	106	45
2022	173	45	0	128	4	8	6	110	128	22	0	0	8	14	106	45
前年比 (%) 2022/ 2021	99	100	—	98	119	129	103	96	98	92	—	—	100	87	100	100

資料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報

備考：2013年から期末在庫を45千俵とする。

Source: "Silk balance and price situation monthly", "Trade Statistics"

(10) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）

Breakdown of Silk Second Products Imports (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit: 1,000 Bales of 60kg)

項目 Item	暦年 Calendar Year	2018	2019	2020	2021	2022		
							前年比 (%) y/y	構成比 (%) ratio
布 は く 製 Product made in cloth	男子用外衣類 Men's upper garments	1.3	1.5	1.1	0.8	0.6	75.0	0.5
	女子用外衣類 Women's upper garments	86.7	85.1	78.4	69.3	63.4	91.5	57.7
	うちブラウス Blouse of the inside	0.3	0.7	0.6	0.8	0.5	62.5	0.5
	男子用下着・寝具衣料 Men's underwear・bedding cloth	0.6	2.3	1.8	1.8	2.2	122.2	2.0
	女子用下着・寝具衣料 Women's underwear・bedding cloth	23.1	20.5	20.3	21.1	20.5	97.2	18.7
	ハンカチ Handkerchief	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2	200.0	0.2
	ショール、スカーフ類 Shawl, scarves	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—
	ネクタイ類 Ties	1.4	6.2	3.3	3.0	4.1	136.7	3.7
	メリヤス、クロセス編物 Knit. kurose knitting	3.9	3.6	3.9	4.4	4.6	104.5	4.2
	その他の洋装類 Other western clothes	13.7	14.1	11.5	10.8	11.0	101.9	10.0
洋装類計 Western clothes subtotal	131.1	133.4	120.3	111.4	106.5	95.6	97.0	
和装類計 Japanese clothes subtotal	1.2	0.9	0.9	0.9	1.0	111.1	0.9	
うち絹製の帯小物等 Silk obi accessories of the inside	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—	
その他 Others	2.9	2.3	2.0	2.2	2.3	104.5	2.1	
合計 Total		135.2	136.7	123.2	114.5	109.8	95.9	100.0

資料：財務省「日本貿易月報」

注)：ラウンドにより合計が一致しないことがある。

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance “Trade Statistics”

Note：Total may not added up due to round off.

(11) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills (単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month	項 目 Item	総 計 Grand Total		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year				
	2015	116	159	115
	2016	115	110	120
	2017	103	120	103
	2018	92	117	78
	2019	89	97	70
	2020	72	73	69
	2021	55	57	67
	2022	46	59	54
2021 -	1	0	4	65
	2	0	4	60
	3	0	5	54
	4	0	4	50
	5	0	4	46
	6	14	5	55
	7	6	5	56
	8	10	5	61
	9	3	5	59
	10	19	5	73
	11	4	7	70
	12	1	4	67
2022 -	1	0	4	62
	2	1	3	60
	3	0	7	53
	4	0	5	48
	5	1	5	44
	6	10	5	49
	7	8	5	52
	8	7	5	54
	9	1	6	49
	10	18	5	62
	11	1	4	59
	12	0	5	54
2023 -	1	0	4	49

資料：農林水産省生産局(～2010.3) 中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)

中央蚕糸協会(2012.12～2018.10) (一財)大日本蚕糸会(2018.11～)

備考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～2012.11).

Central Raw Silk Association (2012.12～2018.10). The Dainippon Silk Foundation (2018.11～)

Remarks : 1. This table includes reelable, douppion and waste cocoons.

2. Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding month).

(12) 製糸工場の操業状況
Activities of Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運 転 工 場 数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操 業 日 数 Days Operated	従 業 者 数 Number of Workers
			運 転 可 能 Operable	運 転 Operating			
曆 年 Calendar Year							
	2015	8	110	33	30	263	53
	2016	8	110	29	26	267	55
	2017	8	110	31	28	266	59
	2018	8	74	34	46	253	57
	2019	8	74	27	36	239	51
	2020	8	74	23	31	218	48
	2021	7	74	15	20	214	43
	2022	7	64	14	22	230	41
	2021 - 1	6	74	16	22	14	38
	2	6	74	21	28	14	38
	3	6	74	21	28	18	35
	4	6	74	15	20	16	35
	5	6	74	13	18	15	35
	6	7	74	12	16	22	37
	7	7	74	12	16	22	37
	8	7	74	7	9	17	37
	9	7	74	12	16	18	43
	10	7	74	12	16	22	44
	11	7	74	18	24	17	43
	12	7	74	16	22	19	43
	2022 - 1	6	74	10	14	15	35
	2	6	74	14	19	14	35
	3	6	74	17	23	23	35
	4	6	74	19	26	19	35
	5	6	74	16	22	17	34
	6	6	74	12	16	21	34
	7	6	74	13	18	22	36
	8	6	74	13	18	18	33
	9	7	44	18	41	21	41
	10	7	44	13	30	21	40
	11	7	44	12	27	19	40
	12	7	44	14	32	20	41
	2023 - 1	7	44	15	34	16	42

資料：農林水産省生産局(～2010.3) 中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)

中央蚕糸協会(2012.12～2018.10) (一財)大日本蚕糸会(2018.11～)

備考：1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。

2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。

3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～).

Central Raw Silk Association(2012.12～2018.10). The Dainippon Silk Foundation (2018.11～)

Remarks : 1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.

2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.

3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(13) 生糸在庫数量の内訳
Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

年月 Year & Month	項目 Item	計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸市場外 売買業者 Domestic Dealers	生糸輸出 入業者 Ex and Importers
暦年 Calendar Year					
	2015	1,410	94	1,316	
	2016	1,406	130	1,276	
	2017	1,747	156	1,591	
	2018	1,330	230	1,100	
	2019	1,429	238	1,191	
	2020	1,066	178	888	
	2021	868	170	698	
	2022	927	127	800	
2021 -	1	1,059	182	877	
	2	1,016	183	833	
	3	989	189	800	
	4	885	183	702	
	5	924	186	738	
	6	915	186	729	
	7	891	184	707	
	8	913	185	728	
	9	844	182	662	
	10	841	174	667	
	11	869	175	694	
	12	868	170	698	
2022 -	1	823	163	660	
	2	854	160	694	
	3	933	163	770	
	4	788	160	628	
	5	825	155	670	
	6	953	146	807	
	7	923	131	792	
	8	1,001	134	867	
	9	944	135	809	
	10	798	134	664	
	11	880	125	755	
	12	927	127	800	
2023 -	1	866	129	737	

資料：農林水産省生産局(～2010.3) 中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)

中央蚕糸協会(2012.12～2018.10) (一財)大日本蚕糸会(2018.11～)

Source: The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～2012.11).

Central Raw Silk Association (2012.12～2018.10). The Dainippon Silk Foundation (2018.11～)

(14) 蚕糸関係品目別輸入状況
Breakdown of Silk-Related Products Imports

	単位 Unit	2017	2018	2019	2020	2021	2022	前年比(%) 2022/2021
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bales of 60kg	7,560	5,038	4,852	2,443	3,067	3,646	118.9
絹糸 Silk Yarn	俵 Bales of 60kg	14,560	11,092	10,920	6,226	6,136	7,945	129.5
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bales of 60kg	39	18	22	12	18	11	61.1
繭 Cocoon	kg	6,400	7,000	5,000	3,400	2,400	2,000	83.3
くず繭 Waste Cocoon	kg	6,289	6,829	982	1,818	5,274	2,536	48.1
その他の絹 くず Other Silk Waste	kg	57,361	89,045	24,629	47,904	114,521	62,480	54.6
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	63,650	95,874	25,611	49,722	119,795	65,016	54.3
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other than noil	kg	320,022	286,235	251,731	180,505	234,643	234,118	99.8
絹紡糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	118,382	149,274	123,741	109,845	131,126	151,494	115.5
絹織物 Silk Fabrics	m ²	4,896,980	4,150,559	3,893,201	2,551,036	2,753,029	2,803,182	101.8

資料：財務省関税局

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance

(15) 生糸の原産国別輸入数量
Raw Silk Imports

(単位：60kg 俵)
(Unit: Bales of 60kg)

国名 Country	計 Total	中国 China	ブラジル Brazil	ベトナム Vietnam	タイ Thailand	その他 Others
年 月 Year & Month						
暦年 Calendar Year						
2015	6,479 (58)	5,569 (49)	887 (9)	20	2	—
2016	6,546 (52)	5,378 (44)	1,142 (8)	24	2	—
2017	7,560 (68)	6,008 (62)	1,456 (5)	91	2	1
2018	5,038 (51)	3,484 (46)	1,446 (5)	50	59	—
2019	4,852 (67)	3,620 (51)	1,228 (13)	—	3 (3)	—
2020	2,443 (30)	1,294 (25)	1,145 (5)	—	—	4
2021	3,067 (31)	1,852 (25)	1,182 (5)	—	—	—
2022	3,646 (45)	2,402 (44)	1,222	—	22 (1)	—
2021 - 1	123	57	66	—	—	—
2	118	108	10	—	—	—
3	371 (5)	260	111 (5)	—	—	—
4	5	5	—	—	—	—
5	506 (10)	363 (10)	143	—	—	—
6	178 (5)	134 (5)	45	—	—	—
7	266	197	70	—	—	—
8	244	119	125	—	—	—
9	389	263	126	—	—	—
10	219 (5)	82 (5)	137	—	—	—
11	323 (5)	193 (5)	129	—	—	—
12	322	96	226	—	—	—
2022 - 1	379 (8)	253 (8)	115	—	11	—
2	222 (5)	122 (5)	100	—	—	—
3	541	372	169	—	—	—
4	—	—	—	—	—	—
5	500	374	126	—	—	—
6	426 (10)	225 (10)	202	—	—	—
7	291	260	30	—	—	—
8	473 (5)	235 (5)	229	—	10	—
9	149	109	40	—	—	—
10	187 (5)	151 (5)	36	—	—	—
11	297 (5)	191 (5)	105	—	—	—
12	180 (6)	109 (5)	71	—	1 (1)	—
2023 - 1	271 (10)	117 (10)	154	—	—	—

資料：財務省関税局

備考：1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

2. () 書きは、玉糸の輸入数量で内数である。

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1. Country volume may not add up the total volume due to round off.

2. Figures in parenthesis indicate the break down for doupion silk imports.

(16) 絹糸の原産国別輸入数量
Silk Yarn Imports

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

年 月 Year & Month	国 名 Country	計 Total	中 国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
暦 年 Calendar Year								
2015		14,051	7,928	5,586	4	0	531	2
2016		12,094	7,289	4,074	16	0	711	4
2017		14,560	8,431	5,256	10	0	862	0
2018		11,092	6,217	4,031	10	0	802	32
2019		10,920	6,658	3,489	16	—	757	1
2020		6,226	3,516	2,124	3	0	582	1
2021		6,136	3,472	2,217	2	0	442	3
2022		7,945	4,670	2,665	2	0	608	0
2021 -	1	428	227	145	—	—	55	—
	2	504	308	196	1	—	—	—
	3	339	241	73	—	0	26	—
	4	451	298	153	—	—	—	—
	5	460	226	144	—	—	90	—
	6	619	437	172	0	—	10	—
	7	772	311	461	—	—	—	—
	8	585	401	113	0	—	71	—
	9	433	207	195	—	—	30	0
	10	451	231	188	1	—	30	0
	11	480	318	134	—	—	25	3
	12	614	266	243	—	—	105	—
2022 -	1	588	353	220	—	—	15	—
	2	484	260	167	—	—	57	—
	3	667	463	173	—	0	30	—
	4	412	214	143	—	—	55	—
	5	857	438	342	—	—	76	—
	6	703	469	143	0	—	90	—
	7	893	554	284	—	0	56	—
	8	764	379	313	—	—	71	—
	9	688	455	207	—	—	25	—
	10	642	367	244	1	—	30	—
	11	739	430	218	0	—	92	—
	12	509	287	211	—	—	10	0
2023 -	1	650	364	185	—	—	101	—

資料：財務省関税局

備考：kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks: Country volume may not add up the total volume due to round off.

(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価
Raw Silk and Silk Yarn Imports in Major Countries

単位：俵, 円/kg
Unit: bale of 60kg, yen/kg

項目 Item	輸入生糸（通関ベース） Raw Silk Imprt				輸入絹糸（通関ベース） Silk Yarn Import						
	中国 China		ブラジル Brazil		中国 China		ブラジル Brazil		ベトナム Vietnam		
	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	
年月 Year & Month											
暦年 Calendar Year											
2015	5,520	6,803	879	8,199	7,928	6,908	531	9,261	5,586	7,283	
2016	5,334	5,614	1,134	6,164	7,289	5,764	711	6,654	4,074	5,946	
2017	5,946	6,574	1,451	6,517	8,431	6,762	862	7,381	5,256	6,627	
2018	3,438	7,973	1,441	7,857	6,217	8,090	802	8,551	4,031	7,754	
2019	3,569	6,561	1,215	7,067	6,658	6,426	757	7,703	3,489	6,782	
2020	1,269	6,243	1,140	6,587	3,516	6,415	582	7,441	2,124	6,627	
2021	1,852	7,096	1,183	6,390	3,472	7,177	442	7,154	2,217	6,676	
2022	2,358	8,878	1,222	9,124	4,670	9,496	608	10,387	2,665	9,557	
2021 - 1	57	5,431	66	5,894	227	5,546	55	6,763	145	6,045	
2	108	5,577	10	4,033	308	5,835	—	—	196	5,911	
3	260	5,940	106	5,691	241	6,259	25	6,392	73	5,826	
4	5	6,397	—	—	298	6,330	—	—	153	5,845	
5	353	6,519	143	5,982	226	6,488	90	6,817	144	5,918	
6	129	7,127	45	6,258	437	7,156	10	6,827	172	6,630	
7	197	7,345	70	5,968	311	7,354	—	—	461	6,567	
8	119	7,962	125	6,079	401	7,456	71	6,982	113	7,099	
9	263	8,155	126	6,168	207	8,408	30	7,096	195	6,973	
10	77	7,150	137	6,783	231	8,145	30	7,546	188	7,387	
11	188	8,174	129	6,863	318	8,316	25	7,597	134	8,041	
12	96	8,390	226	7,167	266	8,736	105	7,773	243	7,395	
2022 - 1	245	8,104	115	7,528	353	8,346	15	8,423	220	7,713	
2	117	8,382	100	7,700	260	8,633	57	8,411	167	7,716	
3	372	8,372	169	7,689	463	8,646	30	8,583	173	8,385	
4	—	—	—	—	214	8,871	55	8,822	143	9,048	
5	374	9,118	126	9,037	438	9,600	76	9,824	342	9,365	
6	215	8,889	202	9,132	469	10,100	90	9,885	143	9,583	
7	260	8,987	30	10,208	554	9,623	56	11,211	284	10,240	
8	230	8,956	229	10,064	379	9,575	71	11,292	313	9,986	
9	109	9,488	40	10,084	455	9,878	25	10,797	207	10,121	
10	146	9,383	36	11,078	367	10,105	30	12,240	244	10,547	
11	186	9,679	105	10,563	430	10,177	92	12,391	218	10,894	
12	104	8,966	71	10,104	287	9,633	10	11,374	211	9,908	
2023 - 1	107	8,577	154	9,724	364	9,238	101	10,705	185	9,185	

資料：財務省 通関統計による、単価はC I F価格である。

Source : The customs Bureau ,Ministry of Finance

Remarks : A unit price is CIF price.

(18) 絹織物生産数量
Production of Silk Fabrics

(単位：1,000㎡)
(Unit: 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics									
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics		
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn			
年 月 Year & Month	暦 年 Calendar Year										
		2015	2,316	1,228	664	35	529	630	283	347	458
		2016	2,243	1,191	620	38	533	603	266	337	449
		2017	2,195	1,185	639	50	497	587	272	315	422
		2018	2,113	1,151	619	45	487	578	272	306	384
		2019	1,939	1,128	583	43	502	521	242	279	290
		2020	1,214	697	460	15	222	364	169	195	153
		2021	1,279	839	586	9	244	298	90	208	143
	2021 -	1	90	56	38	1	18	25	9	16	9
		2	95	59	40	1	18	26	10	16	9
		3	98	57	43	1	13	30	10	19	12
		4	106	64	50	0	13	29	11	17	14
		5	109	71	48	1	22	27	11	16	11
		6	123	79	51	0	28	29	11	18	14
		7	109	69	52	1	16	29	10	19	10
		8	97	58	46	0	12	27	10	17	11
		9	111	70	53	1	15	29	11	18	13
		10	118	75	54	1	20	28	11	17	14
		11	131	89	54	1	34	29	11	18	13
		12	133	93	57	1	35	29	11	17	11
	2022 -	1	104	71	51	0	19	22	7	15	12
		2	95	59	40	1	18	26	10	16	9
		3	124	87	66	0	21	24	6	18	13
		4	126	87	70	0	17	25	6	19	15
		5	126	89	64	0	25	23	5	18	11
		6	145	105	76	0	29	24	6	18	16
		7	121	82	65	0	18	24	7	17	15
		8	112	78	63	0	15	23	6	17	11
		9	104	70	47	0	23	24	6	18	11
		10	118	81	55	0	26	24	6	18	13
		11	121	88	51	0	37	24	6	18	10
		12	121	88	48	0	40	23	7	17	9
	2023 -	1	106	75	52	0	23	23	7	16	8

資料：(一社)日本絹人織織物工業会(～2020.6) 経済産業省生産動態統計(2020.8～)

備考：1. 絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。

2. 絹織物生産数量の数量は2018年～2021年分までデータ補正がある。

Source: Japan Silk & Rayon Weaver's Association(～2020.6).

Ministry of Economy, Trade, and Industry, Current Production Statistics(2020.8～)

Remarks: 1. Spun and mixed fabrics included. Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

2. As for the production quantity of silk fabrics, data in the year between 2018 and 2021 have been corrected.

(19)丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量
Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項目 Item	絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
暦年 Calendar Year								
2015	2,316	84.7	351,309	87.8	41,893	78.8	526,417	87.6
2016	2,243	96.8	310,271	88.3	38,063	90.9	488,144	92.7
2017	2,195	97.9	294,451	94.9	36,227	95.2	477,594	97.8
2018	2,113	96.3	282,158	95.8	36,316	100.2	426,796	89.4
2019	1,939	91.8	253,429	89.8	27,584	76.0	380,224	89.1
2020	1,214	62.6	154,333	60.9	10,852	39.3	260,360	68.5
2021	1,279	105.4	153,627	99.5	12,321	113.5	303,511	116.6
2022			158,982	103.5	11,988	97.3	281,796	94.4
2021 -								
1	90	73.3	9,930	65.5	773	61.4	19,619	80.4
2	95	77.5	11,810	54.2	910	53.3	20,969	81.0
3	98	74.7	11,526	64.0	1,129	63.0	26,690	92.8
4	106	87.5	14,265	77.6	755	64.4	25,705	129.1
5	109	125.0	11,586	91.5	952	142.3	24,566	215.7
6	123	141.4	13,201	141.6	870	126.1	29,082	136.5
7	109	123.2	14,672	172.0	938	259.8	24,811	133.7
8	97	136.0	10,040	140.5	1,072	174.9	24,161	147.8
9	111	131.0	13,545	135.3	1,092	242.1	24,360	118.8
10	118	130.9	15,194	145.5	1,038	160.9	26,324	107.9
11	131	130.3	13,557	117.7	1,463	167.4	26,748	108.5
12	133	123.2	14,301	126.2	1,329	214.7	29,272	120.9
2022 -								
1	104	115.2	10,399	104.7	983	127.2	22,277	113.5
2	95	100.0	12,746	107.9	982	107.9	20,744	98.4
3	124	126.9	12,376	107.4	863	76.4	25,113	93.8
4	126	118.8	14,948	104.8	1,111	147.2	26,693	101.3
5	123	113.2	11,207	96.7	1,127	118.4	22,216	89.5
6	145	118.2	14,645	110.9	1,237	142.2	26,282	90.4
7	121	111.3	14,540	99.1	996	106.2	22,233	91.3
8	112	115.8	11,938	118.9	939	87.6	20,915	86.3
9	104	93.7	13,993	103.3	845	77.4	24,163	98.3
10	118	100.1	14,932	98.3	1,109	106.8	23,440	88.9
11	121	92.7	13,737	101.3	961	65.7	23,932	89.5
12	121	91.2	13,521	94.5	835	62.8	22,127	91.4
2023 -								
1	106	102.1	9,451	90.9	1,011	102.8	24,615	110.5
2			12,892	101.1	836	85.1		

資料 : 絹織物生産数量は(一社)日本絹人織物工業会(～2020.6) 経済産業省生産動態統計(2020.8～)

主要3産地の生産量、出荷数量は各産地組合の発表による。

備考 : 1. 西陣は京都府織物生産動態調査数値の修正により前年比が合わない場合がある。

2. 2018年～2022年分までデータ補正がある。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association(～2020.6).

Ministry of Economy, Trade, and Industry, Current Production Statistics(2020.8～)

The numbers of Production and Shipments of 3major producing areas are reported by their local unions.

Remarks : 1. Ratio to previous year in Nishijin may become incorrect if there is a correction in the statistical survey on the production dynamics of woven fabrics in Kyoto prefecture.

2. The data in the year between 2018 and 2022 have been corrected.

蚕の一生



蚕の体重と絹糸腺の増え方

蚕 齢	体重の増え方	絹糸腺の増え方
1 齡 (蟻蚕)	1 倍	1 倍
1 齡中	15 倍	30 倍
2 齡中	100 倍	120 倍
3 齡中	550 倍	600 倍
4 齡中	2,500 倍	4,000 倍
熟蚕	10,000 倍	160,000 倍

蚕の体重はわずか23~25日で1万倍以上になる

協力:シルク博物館

一般財団法人 大日本蚕糸会

—資料・海外—

(1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2017年	2018年	2019年
日本	Japan	トン 125	トン 110	トン 92
中国	China			
インド	India	161,684	185,560	185,143
ウズベキスタン	Uzbekistan			
イラン	Iran			
タイ	Thailand			
ブラジル	Brazil	2,995	3,024	3,034
ベトナム	Vietnam			
北朝鮮	North Korea			
トルコ	Turkey			
ブルガリア	Bulgaria			
インドネシア	Indonesia			
シリア	Syria			
主要国の計	Total	164,804	188,694	188,269

区 分		2020年	2021年	2022年
日本	Japan	トン 80	トン 62	トン 51
中国	China			
インド	India	169,345	187,241	
ウズベキスタン	Uzbekistan			
イラン	Iran			
タイ	Thailand			
ブラジル	Brazil			
ベトナム	Vietnam			
北朝鮮	North Korea			
トルコ	Turkey			
ブルガリア	Bulgaria			
インドネシア	Indonesia			
シリア	Syria			
主要国の計	Total	169,425	187,303	51

注 日本は(一財)大日本蚕糸会、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会(ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)及びFAOの統計値を使用し、2016年以降はデータが取れない。

Note Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture, however, there is no data available since 2016 Commission (ISC).

(2)世界主要国の家蚕生糸生産数量

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区 分		2017年		2018年		2019年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	20	337	21	342	16	268
中国	China						
インド	India	22,066	367,767	25,344	422,400	25,239	420,650
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,200	20,000	1,800	30,000	2,037	33,950
タイ	Thailand	680	11,333	680	11,333	700	11,667
ブラジル	Brazil	600	10,000	650	10,833	469	7,817
ベトナム	Vietnam	520	8,667	680	11,333	795	13,250
イラン	Iran	120	2,000	110	1,833	227	3,783
北朝鮮	North Korea	365	6,083	350	5,833	370	6,167
トルコ	Turkey	30	500	30	500	5	83
インドネシア	Indonesia	3	50	3	50	3	50
ブルガリア	Bulgaria	10	167	10	167	10	167
シリア	Syria	0	0	0	0	1	17
主要国の計	Total	25,614	426,904	29,678	494,625	29,872	497,868

区 分		2020年		2021年		2022年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	12	204	10	161	10	167
中国	China						
インド	India	23,896	398,267	25,818	430,300		
ウズベキスタン	Uzbekistan	2,037	33,950	2,037	33,950		
タイ	Thailand	520	8,667	503	8,383		
ブラジル	Brazil	377	6,283				
ベトナム	Vietnam	969	16,150	1,067	17,783		
イラン	Iran	270	4,500	272	4,533		
北朝鮮	North Korea	370	6,167	370	6,167		
トルコ	Turkey	5	83	5	83		
インドネシア	Indonesia	3	50	3	50		
ブルガリア	Bulgaria	10	167	9	150		
シリア	Syria	1	17	1	17		
主要国の計	Total	28,470	474,504	30,095	501,578	10	167

注1 日本は(一財)大日本蚕糸会、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)及びFAOの統計値を使用した。
中国は2016年以降データが取れない。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Dainippon Silk Foundation.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

The data of China has not been available since 2016.

(3) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格

Spot Price of Various Silk Goods

2022年11月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	135.00 ~ 145.00	2,700 ~ 2,900
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	148.00 ~ 174.20	2,960 ~ 3,484
3	玉繭(double cocoon)		111.40 ~ 127.40	2,228 ~ 2,548
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	139.40 ~ 170.40	2,788 ~ 3,408
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	425.00 ~ 442.20	8,500 ~ 8,844
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	428.80 ~ 449.20	8,576 ~ 8,984
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	427.40 ~ 445.00	8,548 ~ 8,900
8	玉糸(doupion silk)	110d	435.60 ~ 445.60	8,712 ~ 8,912
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	56吋(inch)8匁(mom)	40.00 ~ 44.00	800 ~ 880
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	59.00 ~ 64.50	1,180 ~ 1,290
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	48.00 ~ 52.90	960 ~ 1,058
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	41.00 ~ 45.00	820 ~ 900

注:1元=20円

1 CNY=20JPY

2022年12月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	135.00 ~ 145.00	2,565 ~ 2,755
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	148.00 ~ 171.00	2,812 ~ 3,249
3	玉繭(double cocoon)		105.00 ~ 125.00	1,995 ~ 2,375
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	136.25 ~ 168.75	2,589 ~ 3,206
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	425.00 ~ 442.00	8,075 ~ 8,398
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	431.25 ~ 449.00	8,194 ~ 8,531
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	423.50 ~ 445.00	8,047 ~ 8,455
8	玉糸(doupion silk)	110d	435.75 ~ 448.00	8,279 ~ 8,512
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	56吋(inch)8匁(mom)	40.00 ~ 44.00	760 ~ 836
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	59.00 ~ 64.50	1,121 ~ 1,226
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	48.00 ~ 52.50	912 ~ 998
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	41.00 ~ 45.00	779 ~ 855

注:1元=19円

1 CNY=19JPY

資料:中国繭絲綢交易市場(浙江省、嘉興)発表

Source:China Silk Exchange(Zhejiang Sheng Jia Xing)

2023年1月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	135.00 ~ 145.00	2,565 ~ 2,755
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	148.00 ~ 170.00	2,812 ~ 3,230
3	玉繭(double cocoon)		107.50 ~ 125.00	2,043 ~ 2,375
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	135.00 ~ 169.00	2,565 ~ 3,211
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	428.75 ~ 445.75	8,146 ~ 8,469
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	436.50 ~ 450.00	8,294 ~ 8,550
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	429.50 ~ 450.00	8,161 ~ 8,550
8	玉糸(doupion silk)	110d	435.00 ~ 448.00	8,265 ~ 8,512
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(元/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	56吋(inch)8匁(mom)	40.00 ~ 44.00	760 ~ 836
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	59.00 ~ 64.50	1,121 ~ 1,226
11	クレープデシ(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	48.00 ~ 52.50	912 ~ 998
12	クレープデシ(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	41.00 ~ 45.00	779 ~ 855

注:1元=19円

1CNY=19JPY

2023年2月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	138.75 ~ 150.50	2,636 ~ 2,860
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	152.00 ~ 172.50	2,888 ~ 3,278
3	玉繭(double cocoon)		112.00 ~ 130.00	2,128 ~ 2,470
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	137.75 ~ 169.75	2,617 ~ 3,225
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	435.75 ~ 455.75	8,279 ~ 8,659
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	442.00 ~ 462.25	8,398 ~ 8,783
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	438.75 ~ 456.50	8,336 ~ 8,674
8	玉糸(doupion silk)	110d	440.75 ~ 453.75	8,374 ~ 8,621
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(元/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	56吋(inch)8匁(mom)	41.38 ~ 45.38	786 ~ 862
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	60.38 ~ 65.88	1,147 ~ 1,252
11	クレープデシ(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	49.75 ~ 54.25	945 ~ 1,031
12	クレープデシ(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	42.75 ~ 47.13	812 ~ 895

注:1元=19円

1CNY=19JPY

※「シルクレポート」の記事と統計データは、下記のホームページでもご覧になれます。

<https://silk.or.jp>

シルクレポート 2023年4月号 No.77 令和5年4月1日発行

編集 / 発行

一般財団法人大日本蚕糸会

〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館6階

TEL : 03-3214-3500

FAX : 03-3214-3511

URL : <https://silk.or.jp>

製本 / 印刷

株式会社正大印刷社

無断転載禁ず